

医療創生大学
「学修行動調査 2019」調査報告書

教務委員会

目次

2019年度 学修行動調査報告	1
学修行動調査【全学部】集約資料分析	3
大学における学習状況について（全学部）	
設問2（1）	7
設問2（2）	10
設問2（3）	13
設問2（3） バブルグラフ	16
設問2（4）	17
「学修行動調査2019」 教養学部の考察	21
大学における学習状況について（教養学部）	
設問2（1）	22
設問2（2）	25
設問2（3）	28
設問2（3） バブルグラフ	31
設問2（4）	32
「学修行動調査2019」 薬学部の考察	37
大学における学習状況について（薬学部）	
設問2（1）	42
設問2（2）	44
設問2（3）	46
設問2（3） バブルグラフ	49
設問2（4）	50
「学修行動調査2019」 看護学部の考察	53
大学における学習状況について（看護学部）	
設問2（1）	56
設問2（2）	59
設問2（3）	62
設問2（3） バブルグラフ	65
設問2（4）	66

大学における学習状況について（健康医療科学部）

設問2（1）	71
設問2（2）	74
設問2（3）	77
設問2（3） バブルグラフ	80
設問2（4）	81

「学修行動調査2019」 健康医療科学部作業療法学科の考察 85

大学における学習状況について（作業療法学科）

設問2（1）	87
設問2（2）	90
設問2（3）	93
設問2（3） バブルグラフ	96
設問2（4）	97

「学修行動調査2019」 健康医療科学部理学療法学科の考察 101

大学における学習状況について（理学療法学科）

設問2（1）	103
設問2（2）	106
設問2（3）	109
設問2（3） バブルグラフ	112
設問2（4）	113

【付録】

大学に入学する前や高校時代のことについて（1年生のみ：全学部） 119

大学に入学する前や高校時代のことについて（1年生のみ：薬学部） 122

大学に入学する前や高校時代のことについて（1年生のみ：看護学部） 125

大学に入学する前や高校時代のことについて（1年生のみ：健康医療科学部） 128

大学の学びに関する満足度について（全学部） 131

英語の学習状況について（全学部） 135

2019 年度学修行動調査報告

教務委員会
委員長 菊池雄士

本学アセスメント・ポリシーに基づく学生調査の一環として、下記のように 2019 年度学修行動調査を実施した。なお、本学では「学生調査の実施に関する方針」の中で、学修行動調査を次のように位置づけている。

学修行動調査

学生の主体的な学修時間を実質的に増加させ、学びの成果につなげること、学びの成果を実質化することを目的とし、学生の学びの実態を把握する。なお新入生調査および上級生調査により、「生涯学び続け、主体的に考える力」を意味する主体的な学修態度が醸成されるよう、現状の分析と推移を検証し、学士課程教育の改善をはかるための基礎資料とする。

【調査の概要】

調査対象：

教養学部 3・4 年生、薬学部 1・4・6 年生、看護学部 1・3 年生、健康医療科学部 1 年生

調査項目：1. 大学に入学する前や高校時代のことについて（1 年生のみ）

2. 大学における学修状況について

3. 大学の学びに関する満足度について

4. 英語の学修状況について

回答方法：manab@ISU を利用

実施期間：2019 年 7 月 24 日～2019 年 10 月 31 日

回 答 率：35.1%

得られた結果を「学士課程教育の改善」に役立てていくには多面的・継続的な解析作業が必要である。教務委員会では、4 つの調査項目のうち、「2. 大学における就学状況」（授業での学修経験、授業内外における学修行動、正課内外の活動に費やす時間、入学後の知識・能力の変化についての質問）に対する回答に注目し、調査結果を学部ごとに解析することにより、各学部生の特色や学部ごとの問題の所在を明らかにする試みを行った。その結果を以下に掲載する。考察は、学部独自の課題の抽出から学部間の比較に基づく他学部への提言に及んでいる。毎年、定期的に行われる本調査が本学の学生指導をより効果的なものにするために役に立つことを願うものである。

【医療創生大学 学習行動調査 2019】
全学部集約資料分析

(80%以上の調査数値について考察・対策意見表記した)

項目	設問	内 容	肯定的評価(成果)		否定的評価(課題)		対 策
2-(1) 授業における経験や機会	A	体験的学習の有無	68%		32%		
	B	仕事に役立つ学修	87%	学修内容が将来の職業に役に立つと考える学生が増加	13%		
	C	授業内容の解説	80%	教員の説明が社会や日常生活に関連づけられている。	20%		
	D	授業に関するボランティア	10%		90%	教室外で行われる受講者対象ボランティア活動は運営や支援体制整備確立が難しいためと推察される。	広い意味で学外学修の一環ととらえ、インターンシップ等を積極的に推進し、学内外から実践的手法や社会貢献を学ぶ機会を設定していく必要がある。
	E	学生の調査活動	83%	学生自身による文献調査活動等が概ね行われている。	17%		
	F	小テスト・レポートの有無	96%	定期的な小テスト・レポートは定常的に行われている。	4%		
	G	教員の添削・コメント	64%		36%		
	H	学生の発表の場	85%	学生が自分の考えや研究を主体的に発表する場の設定がよくなされている。	15%		
	I	学生相互のディスカッション	85%	授業中における学生相互の意見交換の場が十分設定されている。	15%		
	J	学生によるテーマ設定	48%		52%		
	K	学生の意見を生かす	50%		50%		
	L	希望する履修登録	80%	学年科目配当・時間割について、概ね適正配置されている。	20%		
	M	授業の出席重視姿勢	84%	受講出席は、学修のベースとなるもので当然の姿勢と思われる。	16%		
	N	S A ・ T A の補助	30%		70%		

項目	設問	内 容	肯定的評価(成果)		否定的評価(課題)		対 策
2-(2) 授業以外の学習への取り組み	A	授業課題と図書館活用	72%		28%		
	B	課題へのインターネット上の情報活用	97%	タブレット配付等が活用率の高揚に功を奏しているものと推察される。	3%		
	C	ネットによる課題受信報告提出	93%	タブレット及び学修支援ソフト等の活用が学内広く普及してきたものと推察される。	7%		
	D	課題提出期限遵守	86%	教員及び学生相互のインターネット活用が定着し向上が図られた。	14%		
	E	授業時間外、学生間のコミュニケーション・連携	86%	学生相互に共助・連携姿勢が向上した。	14%		
	F	教員へ異議意見発表	16%		84%	授業中、教員の考え方や意見に意義や意見発表する姿勢に乏しい。	受動的授業から能動的授業が展開されるよう、自ら考え、自ら表現する学生の資質を高める必要がある。
	G	授業への出席	78%		22%		
	H	授業への遅刻なし	85%	遅刻経験のない学生の割合が前年度より増加している	15%		
	I	授業への興味関心	34%		66%		
	J	授業中の居眠り	48%		52%		
	K	教員研究へ参加	8%		92%	教員研究へのプロジェクト参加は4年生以上ゼミ等が主のため他学年学生の参加は少ないと推察される。	教員が取り組む研究活動について、機会あるごとに紹介し、学生の興味関心を高め、プロジェクトへの積極的な参加を促す。
	L	単位外勉強会への参加	21%		79%		
	M	教職員への就職相談	27%		73%		
	N	教員への親近感	53%		47%		

項目	設問	内 容	肯定的評価(成果)		否定的評価(課題)		対 策
2-(3) 入学以来1週間あたりの費やした時間	A	授業や実験への参加	97%	授業にはかなり積極的に参加していることが伺われる。	3%		
	B	授業時間以外の勉強	68%		32%		
	C	時間外教員への質問	61%		39%		
	D	部活動・同好会参加	53%		47%		
	E	アルバイト等体験	49%		51%		
	F	漫画等除く読書	52%		48%		
	G	個人的趣味活動	97%	TV視聴・ゲーム・その他個別趣味活動等の時間確保は、されている。	3%		
	H	ボランティア活動参加	20%		80%	全体的にボランティア活動は低調である。	豊かな人間性を高めるために、学友会等のリードにより、社会貢献体験活動体験の活性化を図る必要がある。
	I	S N S等の利用	99%	学生生活にスマートフォン、PCは必需品であり、十分活用が図られている。	1%		
	J	平日の予習復習を行う時間帯	97%	平日予習・復習の多い時間帯は、放課後・帰宅後夕方・折るが多い。	3%		
	K	休日の予習復習時間帯	93%	休日の予習復習の多い時間帯は夕方から夜間が多い。	7%		

項目	設問	内 容	肯定的評価(成果)		否定的評価(課題)		対 策
2- (4) 入学時点と比較し能力・知識の変化	A	一般的な教養	82%	大学入学後、一般教養知識の向上意識が高い。	18%		
	B	分析力・問題解決能力	70%		30%		
	C	専門分野や学科知識	92%	肯定的回答が高く、高等教育授業の一定成果が見られる。	8%		
	D	批判的に考える能力	61%		39%		
	E	異文化に関する知識	45%		55%		
	F	リーダーシップの能力	45%		55%		
	G	人間関係構築する能力	67%		33%		
	H	他者との協働能力	74%		26%		
	I	異文化人との協力能力	34%		66%		
	J	地域社会問題の理解	54%		46%		
	K	国民が抱える問題理解	43%		57%		
	L	文章表現の能力	55%		45%		
	M	外国語の運用能力	32%		68%		
	N	コミュニケーション能力	66%		34%		
	O	プレゼン能力	67%		23%		
	P	数理的な能力	36%		64%		
	Q	コンピュータ操作能力	79%		21%		
	R	時間有効活用能力	68%		32%		
	S	グローバル問題理解	43%		57%		
	T	就職準備の程度	54%		46%		

2. 大学における学習状況について（全学部）

（１）あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

A. 実験・実習・フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ



C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する



D. 授業の一環でボランティア活動をする



E. 学生自身が文献や資料を調べる



F. 定期的に小テストやレポートが課される



G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する



H. 学生が自分の考えや研究を発表する



I. 授業中に学生同士が議論をする



J. 授業で検討するテーマを学生が設定する



K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる



L. 取りたい授業を履修登録できなかった



M. 出席することが重視される



N. SA・TA（上級生や大学院生の授業補助者）から補助を受ける



(2) 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

A. 授業課題のために図書館の資料を利用した



B. 授業課題のためにインターネット上の情報を利用した



C. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした



D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった



E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした



F. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた



G. 授業を欠席した

1. ひんぱんにあった	9	4.02%
2. ときどきあった	40	17.86%
3. あまりなかった	100	44.64%
4. まったくなかった	75	33.48%
合計	224	100.00%



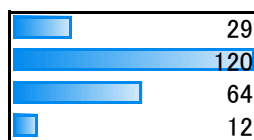
H. 授業に遅刻した

1. ひんぱんにあった	5	2.21%
2. ときどきあった	28	12.39%
3. あまりなかった	64	28.32%
4. まったくなかった	129	57.08%
合計	226	100.00%



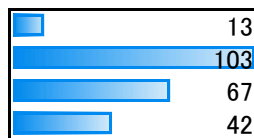
I. 授業をつまらなく感じた

1. ひんぱんにあった	29	12.89%
2. ときどきあった	120	53.33%
3. あまりなかった	64	28.44%
4. まったくなかった	12	5.33%
合計	225	100.00%



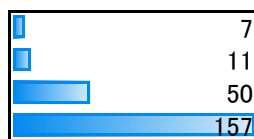
J. 授業中に居眠りをした

1. ひんぱんにあった	13	5.78%
2. ときどきあった	103	45.78%
3. あまりなかった	67	29.78%
4. まったくなかった	42	18.67%
合計	225	100.00%



K. 教員の研究プロジェクトに参加した

1. ひんぱんにあった	7	3.11%
2. ときどきあった	11	4.89%
3. あまりなかった	50	22.22%
4. まったくなかった	157	69.78%
合計	225	100.00%



L. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した

1. ひんぱんにあった	15	6.70%
2. ときどきあった	33	14.73%
3. あまりなかった	53	23.66%
4. まったくなかった	123	54.91%
合計	224	100.00%



M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした

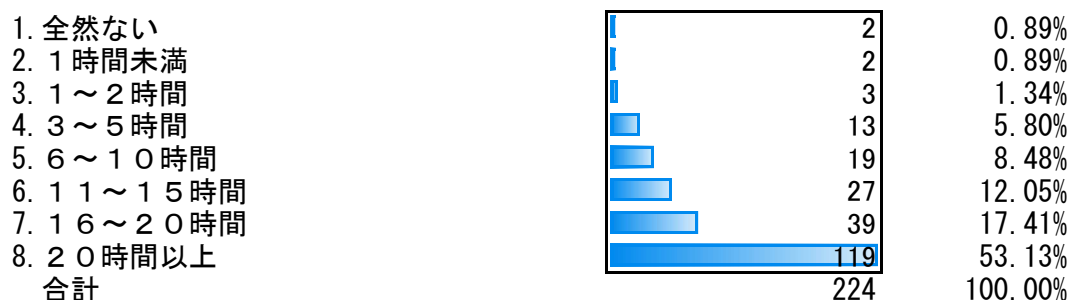


N. 教員に親近感を感じた

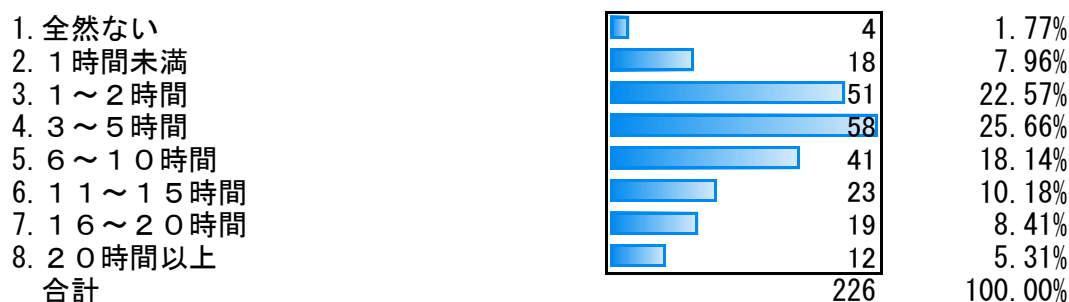


(3) 入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

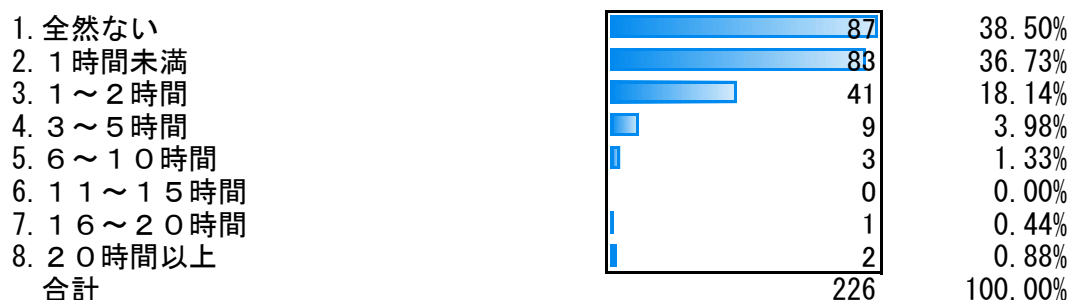
A. 授業や実験に出る



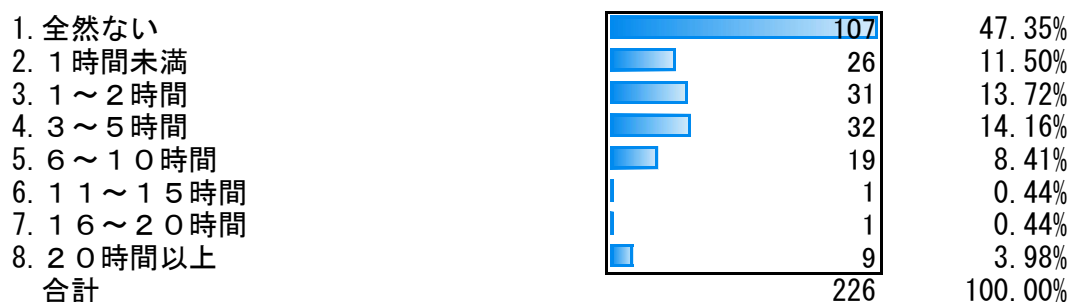
B. 授業時間以外に勉強や宿題をする



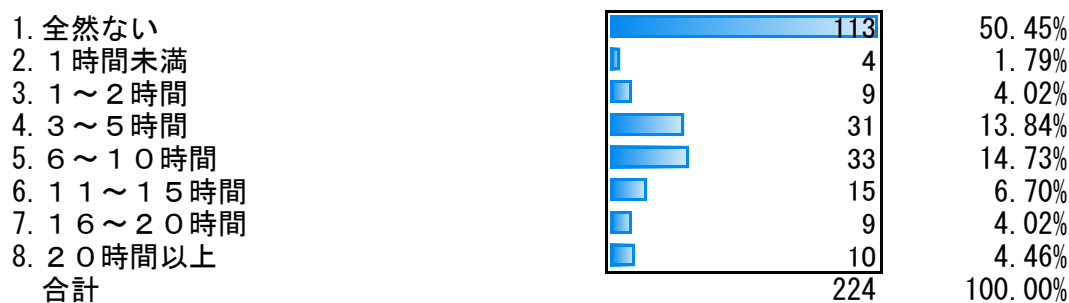
C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する



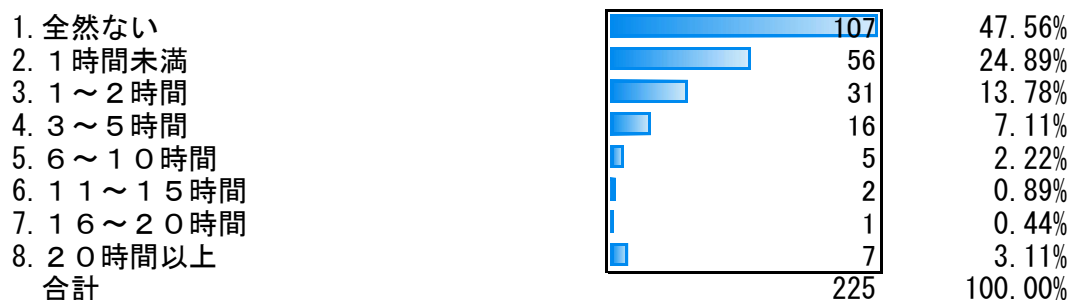
D. 部活動や同好会に参加する



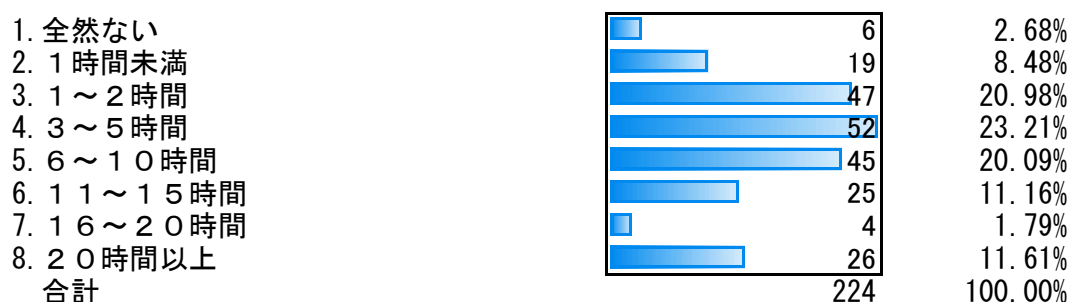
E. 大学外でアルバイトや仕事をする



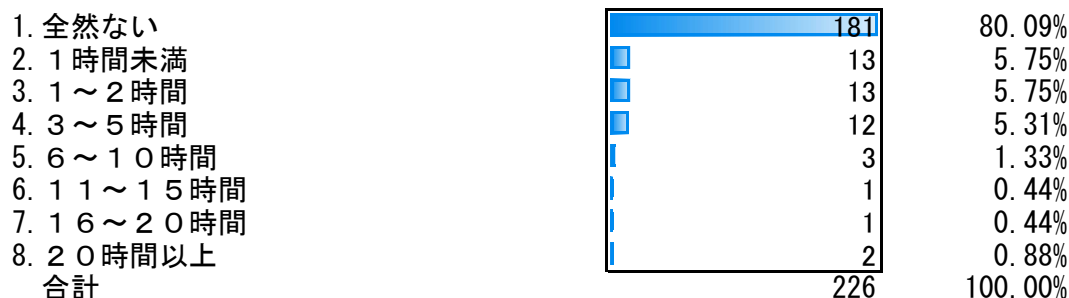
F. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）



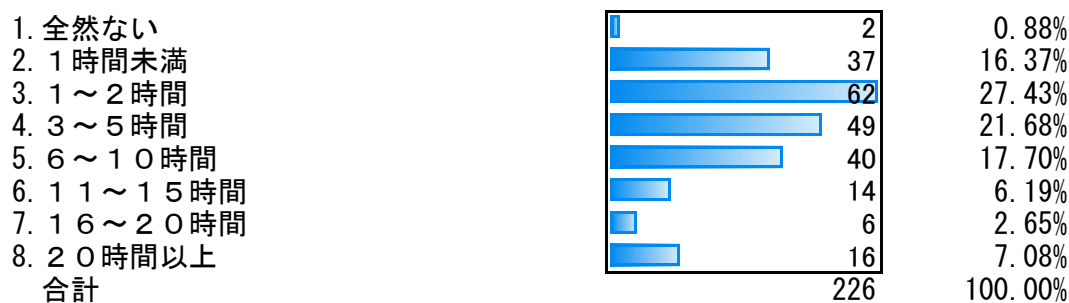
G. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）



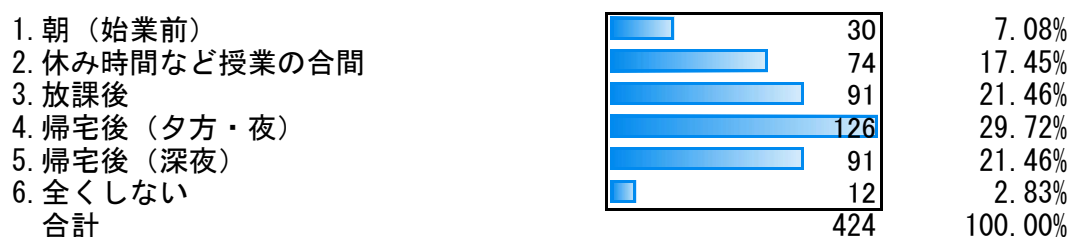
H. ボランティア活動に参加する



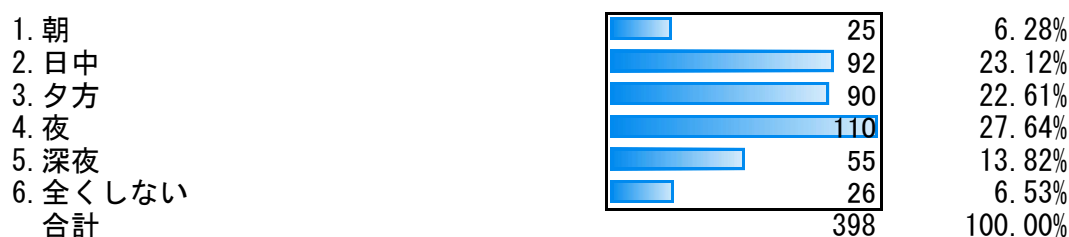
I. メール、Facebook、LINE等の利用



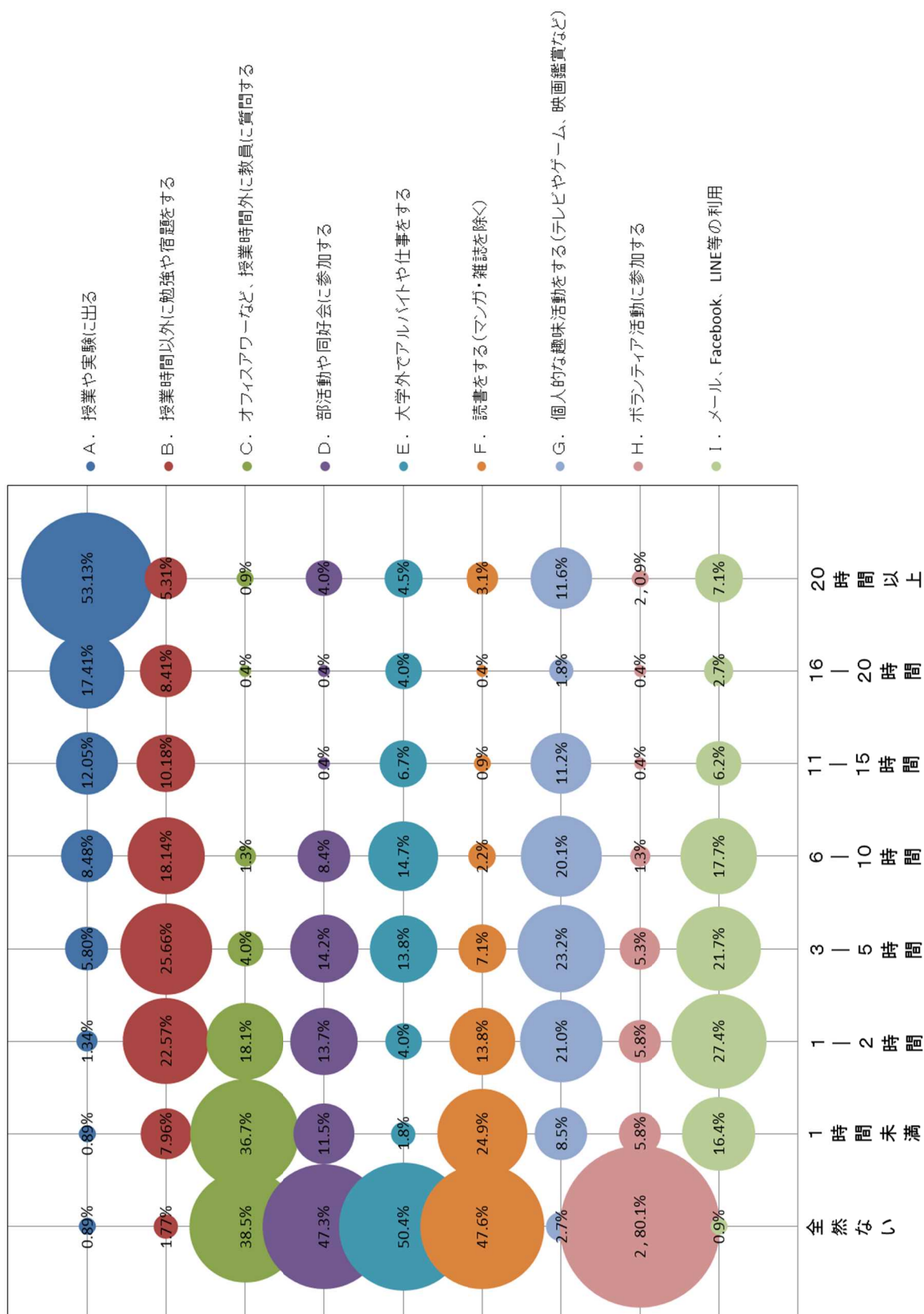
J. 平日（授業のある日）に予習・復習を行う主な時間帯 (あてはまるものをすべて選んでください。)



K. 休日（授業のない日）に予習・復習を行う主な時間帯 (あてはまるものをすべて選んでください。)



2019(3)入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりのどのくらいの時間を費やしましたか



(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

A. 一般的な教養



B. 分析力や問題解決能力



C. 専門分野や学科の知識



D. 批判的に考える能力



E. 異文化の人々に関する知識



F. リーダーシップの能力



G. 人間関係を構築する能力



H. 他の人と協力して物事を遂行する能力



I. 異文化の人々と協力する能力



J. 地域社会が直面する問題を理解する能力



K. 国民が直面する問題を理解する能力



L. 文章表現の能力



M. 外国語の運用能力



N. コミュニケーションの能力



O. プレゼンテーションの能力



P. 数理的な能力



Q. コンピュータの操作能力



R. 時間を有効に利用する能力



S. グローバルな問題の理解



T. 卒業後に就職するための準備の程度



1. 大学における学習状況について

1.1. 前回調査との比較

- ・ 実験・実習・フィールドワークなどの体験的な学びをしていると回答する学生の比率が増加傾向にあった。
- ・ 授業の進め方に学生の意見が取り入れられると回答する学生の比率が増加傾向にあった。
- ・ 授業を欠席した、授業を欠席したと回答する学生の比率が減少傾向にあった。

1.2. 全体との比較

- ・ 大学の教職員に将来のキャリアの相談をしたと回答する学生の比率が比較的多かった

⇒多様な体験型の授業が行われていることを学生も実感しているようである。進め方についても学生の意見を取り入れる傾向が強まる等、主体的に学ぼうとする学生の意欲を支えるシステムとなっている。また、他学部に比べ卒業後の進路の自由度も高いため、教職員に相談する機会は比較的多いようである。欠席・遅刻は減少傾向が認められている。

2. 1 週間あたりの活動時間について

2.1. 前回調査との比較

- ・ 平日（授業のある日）に予習・復習を行う主な時間帯として「休み時間などの授業の合間」と回答する学生の比率が減り「帰宅後（夕方・夜）」と回答する学生の比率が増加した。

2.2. 全体との比較

- ・ 授業や実験に出る時間が、少なかった。また、授業時間以外の勉強・宿題の時間も少なかった。
- ・ 大学外でアルバイトや仕事をする時間が多かった。

⇒他学部に比べると学習時間が少なく、アルバイトに費やす時間が長い。学内にいても授業時間以外は勉強に費やす時間は短いことが示唆される。特に、4 年生は卒業研究以外に授業がない学生も多いためこのような結果になったと考えられる。

3. 入学した時点と比べて変化した能力・知識について

3.1. 前回調査との比較

- ・ 専門分野や学科の知識や、批判的に考える能力については増加したとの回答が増えた。
- ・ 異文化の人々に関する知識は「変化なし」との回答が増えていた。

3.2. 全体との比較

- ・ 異文化の人々に関する知識、人間関係を構築する能力、数理的な能力、時間を有効に利用する能力については「変化なし」と回答する学生の比率が多い
- ・ 卒業後に就職するための準備の程度が増えたとする学生の比率が多い

⇒3、4 年生のみの回答ということで、就職するための準備の程度についての変化は感じられている。しかしながら、専門的な知識以外の各面については、あまり変化しなかったと学生自身は振り返っていることが認められる。

2. 大学における学習状況について（教養学部）

（１）あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

A. 実験・実習・フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ



C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する



D. 授業の一環でボランティア活動をする



E. 学生自身が文献や資料を調べる



F. 定期的に小テストやレポートが課される



G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する



H. 学生が自分の考えや研究を発表する



I. 授業中に学生同士が議論をする



J. 授業で検討するテーマを学生が設定する



K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる



L. 取りたい授業を履修登録できなかった



M. 出席することが重視される



N. SA・TA（上級生や大学院生の授業補助者）から補助を受ける



(2) 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

A. 授業課題のために図書館の資料を利用した



B. 授業課題のためにインターネット上の情報を利用した



C. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした



D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった



E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした

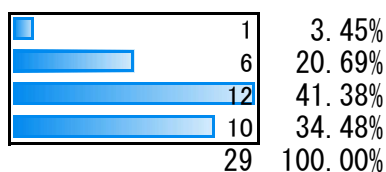


F. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた



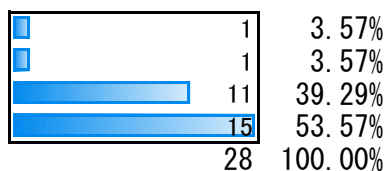
G. 授業を欠席した

1. ひんぱんにあった
2. ときどきあった
3. あまりなかった
4. まったくなかった
- 合計



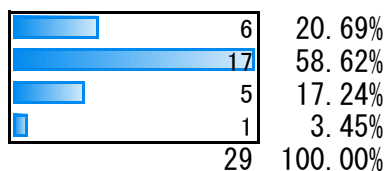
H. 授業に遅刻した

1. ひんぱんにあった
2. ときどきあった
3. あまりなかった
4. まったくなかった
- 合計



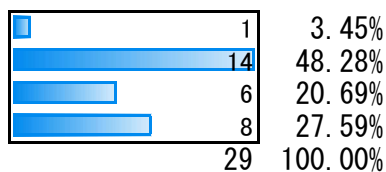
I. 授業をつまらなく感じた

1. ひんぱんにあった
2. ときどきあった
3. あまりなかった
4. まったくなかった
- 合計



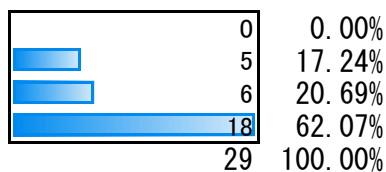
J. 授業中に居眠りをした

1. ひんぱんにあった
2. ときどきあった
3. あまりなかった
4. まったくなかった
- 合計



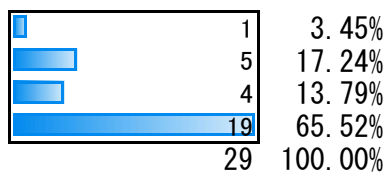
K. 教員の研究プロジェクトに参加した

1. ひんぱんにあった
2. ときどきあった
3. あまりなかった
4. まったくなかった
- 合計



L. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した

1. ひんぱんにあった
2. ときどきあった
3. あまりなかった
4. まったくなかった
- 合計



M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした



N. 教員に親近感を感じた

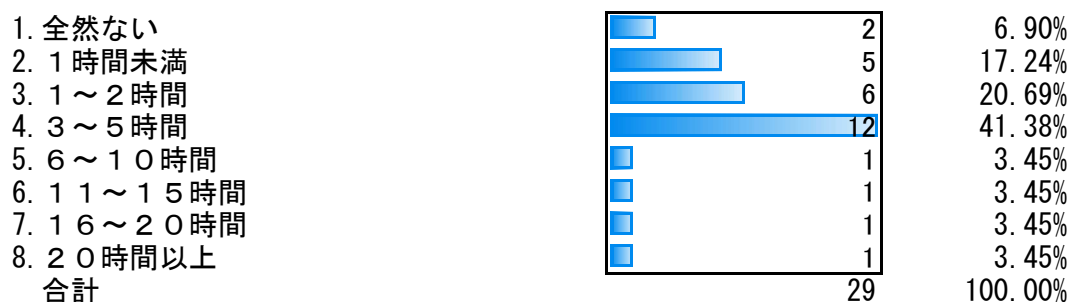


(3) 入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

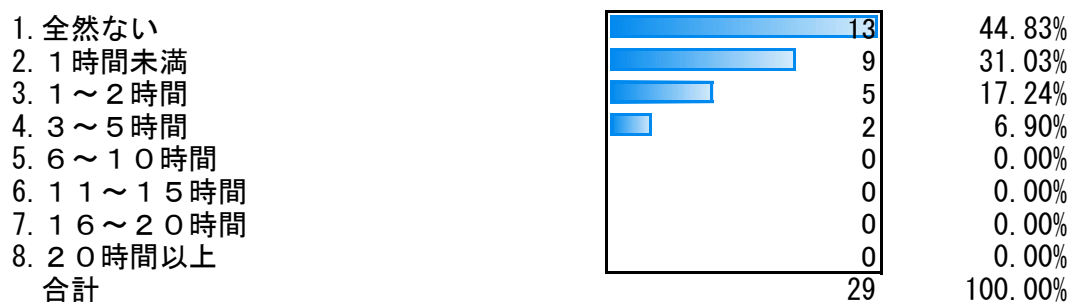
A. 授業や実験に出る



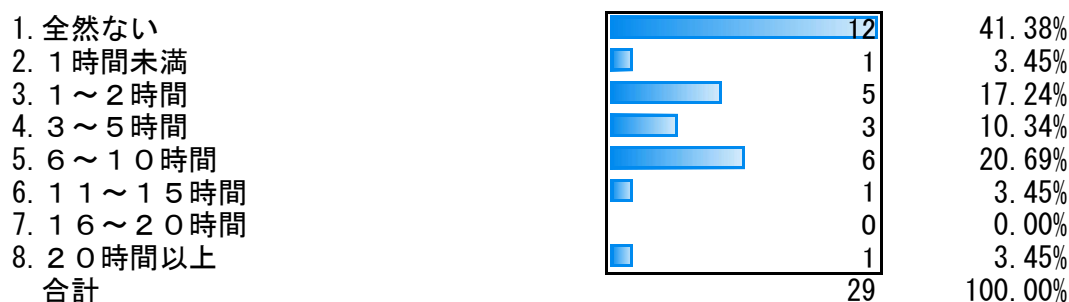
B. 授業時間以外に勉強や宿題をする



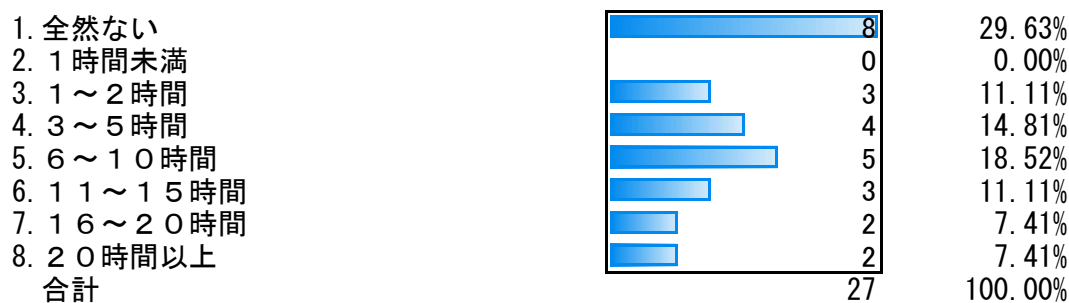
C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する



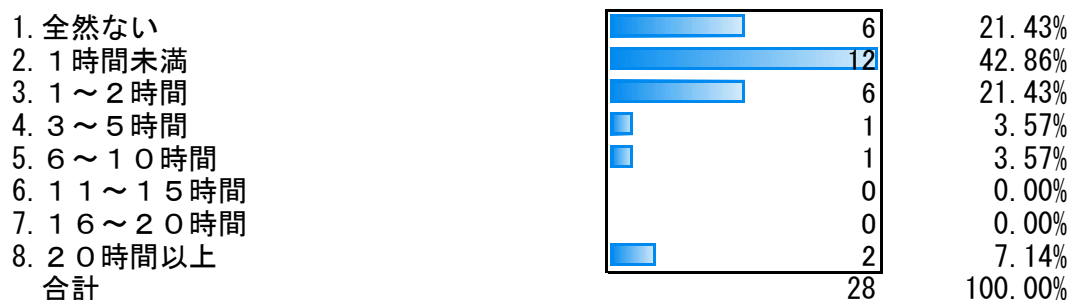
D. 部活動や同好会に参加する



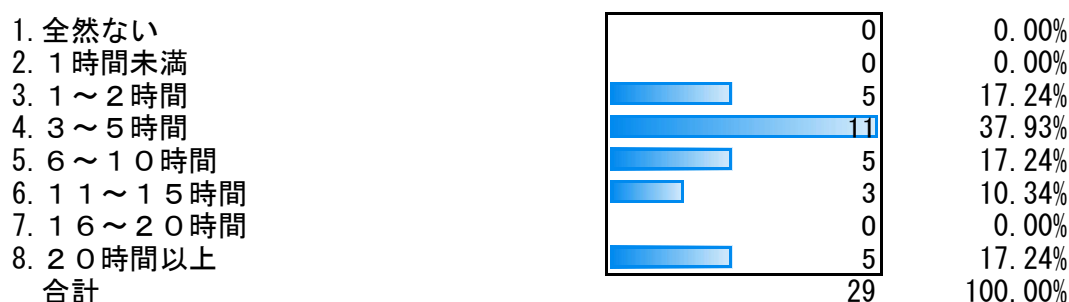
E. 大学外でアルバイトや仕事をする



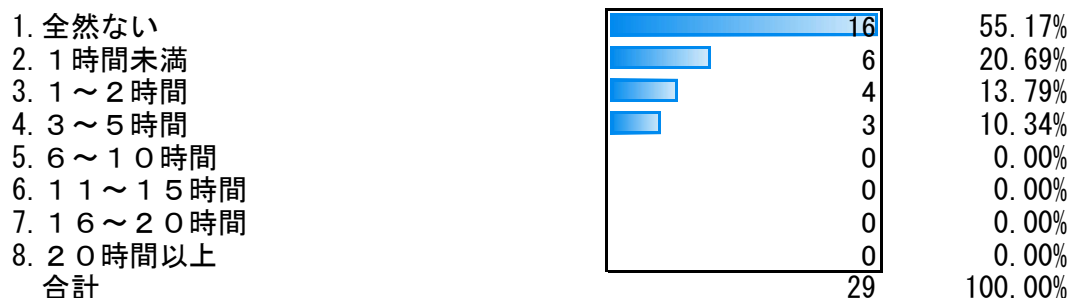
F. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）



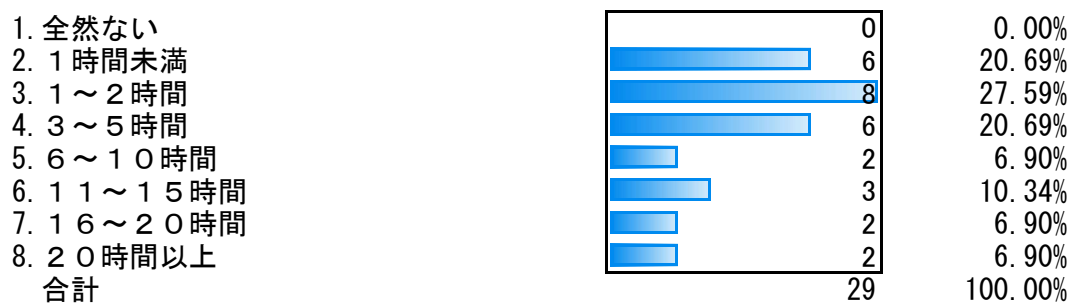
G. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）



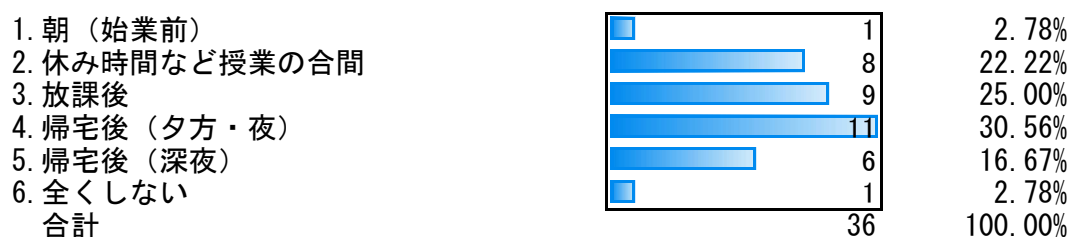
H. ボランティア活動に参加する



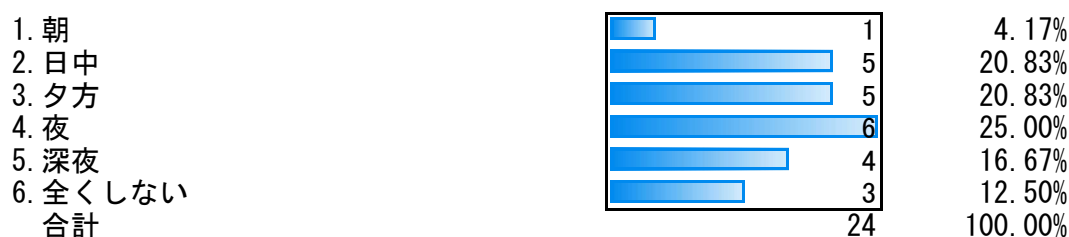
I. メール、Facebook、LINE等の利用



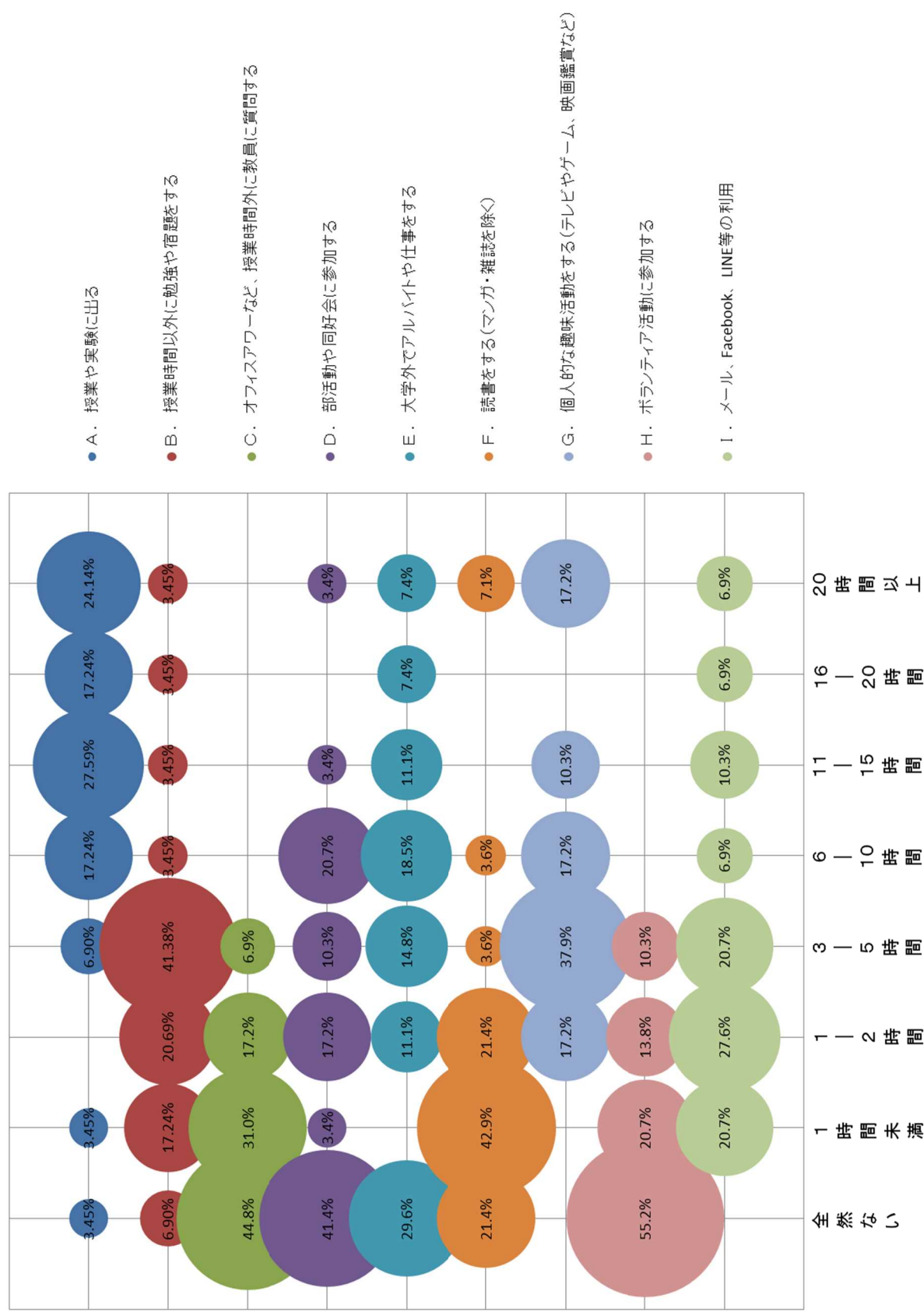
J. 平日（授業のある日）に予習・復習を行う主な時間帯 （あてはまるものをすべて選んでください。）



K. 休日（授業のない日）に予習・復習を行う主な時間帯 （あてはまるものをすべて選んでください。）



2019(3)入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか



(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

A. 一般的な教養



B. 分析力や問題解決能力



C. 専門分野や学科の知識



D. 批判的に考える能力



E. 異文化の人々に関する知識



F. リーダーシップの能力



G. 人間関係を構築する能力



H. 他の人と協力して物事を遂行する能力



I. 異文化の人々と協力する能力



J. 地域社会が直面する問題を理解する能力



K. 国民が直面する問題を理解する能力



L. 文章表現の能力



M. 外国語の運用能力



N. コミュニケーションの能力



O. プレゼンテーションの能力



P. 数理的な能力



Q. コンピュータの操作能力



R. 時間を有効に利用する能力



S. グローバルな問題の理解



T. 卒業後に就職するための準備の程度



薬学部の 2016 年度の調査結果（4 年前；表：青色）との比較をした。さらに、2019 年度の全学平均（表：緑色）との比較をした。結果が異なる場合は、改善（黄色の裏色）と後退（小豆色の裏色）で区別した。

2. 大学における学習状況について

（1）あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

- A. 実験・実習・フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ
- B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ
- C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する
- D. 授業の一環でボランティア活動をする

* A～D は、4 年前とほとんど差が認められなかった。

- E. 学生自身が文献や資料を調べる
- F. 定期的に小テストやレポートが課される
- G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する
- H. 学生が自分の考えや研究を発表する
- I. 授業中に学生同士が議論をする

* E～I は、2016 年度の薬学部の結果（4 年前）や、2019 度の全学平均よりもかなり改善している。特に、「小テストやレポート」が大きく増加し、「添削やコメントを付けた返却」が倍増している。一般論では教員の努力が大きく評価される。しかし、現実には、学年によっては時に過剰なレポートが、毎日の授業の予習・復習を大きく圧迫している側面もあるので、学年毎の調整が必要である。実習終了時間を大幅に延長させている実習を含め、要検討である。

例えばある学年は、今週はレポート 4 本の提出を求められているという。実習やレポートは、目一杯やらせれば良いというものではなく、効果が期待できる、実のある設定が求められる。レポートのある程度の部分は、実習時間中に作成させるべきである。我々が育ってきた時代と目の前の現実とは、必ずしも同じではない。

- J. 授業で検討する
- K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる
- L. 取りたい授業を履修登録できなかった
- M. 出席することが重視される

* J～M は、大きな差が認められなかった。全学的に、相変わらず、取りたい授業を取れない学生の割合が多いが、可能な範囲で検討する必要がある。

N. SA・TA（上級生や大学院生の授業補助者）から補助を受ける

* 前回調査より大きく前進し、全学平均よりもはるかに多い。良い制度なので、全学的にも広めて欲しい。しかし、SA・TAとして使える学生をどのくらい抱えているかという学部事情が大きく異なるので、一概に比較はできない。

(2) 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

A. 授業課題のために図書館の資料を利用した

* 大きな変化はなかった。

B. 授業課題のためにインターネット上の情報を利用した

C. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした

* インターネットの活用が、4年前より、また全学平均より大きく増加している。インターネットで集めたデータは裏付けを取って活用する必要があるが、うまく活用すると利点も多い。

D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった

* 期限内に提出物を提出した学生が4年前より大きく増加し、また全学平均より増加している。

E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした

* 4年前より大きく増加し、全学平均より多い。これは、各々の学生が理解を深めるために極めて大事なことで、薬学部の伝統になってきているし、全学的にも同じ傾向にある。

F. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた

G. 授業を欠席した

H. 授業に遅刻した

I. 授業をつまらなく感じた

* 大きな変化はなかった。

J. 授業中に居眠りをした

* 4年前より大きく増加し、全学平均より多い。薬学部の学生は、疲れ切っている学生が多いからなのかもしれない。しかし、「授業をつまらなく感じた」学生の数も相変わらず多いので併せて考えると、学生の勉強不足なのか、あるいは教員の工夫不足なのか、どちらかの可能性が強い。ただ単に覚えさせようとしたり、教科書を読んでいるような単調な授業は眠気を誘う。

K. 教員の研究プロジェクトに参加した

L. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した

M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした

* 大きな変化はなかった。

N. 教員に親近感を感じた

* 4年前より増えていて、全学より圧倒的に多い。授業以外でも学生とのコミュニケーションがしっかり取れている証だと思う。

(3) 入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

A. 授業や実験に出る

* 20時間以上が圧倒的に多いが、薬学部では1~4年の間1単位の科目が大いので授業数が多く、そのことを反映していると思われる。

B. 授業時間以外に勉強や宿題をする

* 学習時間は、全学よりかなり多い。しかし、課題やレポートをコントロールし、予習・復習の時間を確保させる必要がある。

C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する

* 授業時間以外に教員に質問する時間が、4年前より増えていて、全学よりも多い。

D. 部活動や同好会に参加する

E. 大学外でアルバイトや仕事をする

F. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）

* 部活、アルバイト、読書に時間が4年前より減っており、全学平均よりも少ない。

G. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

H. ボランティア活動に参加する

* 大きな変化はなかった。

I. メール、Facebook、LINE等の利用

* 4年前より増えているし、全学平均よりも明らかに多い。

J. 平日（授業のある日）に予習・復習を行う主な時間帯（あてはまるものをすべて選んでください。）

K. 休日（授業のない日）に予習・復習を行う主な時間帯あてはまるものをすべて選んでください。）

* 大きな変化はなかった。

(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

A. 一般的な教養

* 大きな変化はなかった。

B. 分析力や問題解決能力

C. 専門分野や学科の知識

* 大きく増えた人が増加していて、全学平均よりも多い。

D. 批判的に考える能力

E. 異文化の人々に関する知識

* 大きな変化はなかった。

F. リーダーシップの能力

G. 人間関係を構築する能力

H. 他の人と協力して物事を遂行する能力

I. 異文化の人々と協力する能力

* 人間関係を構築する力やリーダーシップ能力が4年前より減っていて、全学平均よりも低い。

J. 地域社会が直面する問題を理解する能力

K. 国民が直面する問題を理解する能力

* 社会に目を向ける能力が4年前より落ちているし、全学平均よりもかなり低い。

L. 文章表現の能力

M. 外国語の運用能力

N. コミュニケーションの能力

* いずれも、4年前より伸びが大きく減少しており、全学平均よりも悪い。

O. プレゼンテーションの能力

* 大きな変化はなかった。

P. 数理的な能力

* 大きく伸びる傾向にある。全学平均よりも高い。

Q. コンピュータの操作能力

* 大きな変化はなかった。

R. 時間を有効に利用する能力

* 大きく増えた人が大幅に増え、全学平均よりも高い。授業、勉強、レポート等に追い立てられ、鍛えられたのだと思う。

S. グローバルな問題の理解

T. 卒業後に就職するための準備の程度

* 大きな変化はなかった。

まとめ

全体的な傾向は、2019年度も今までと大きくは変わっていない。2019年度の特徴を次に挙げてみた。

- 1) 4年前と比較し、「小テストやレポートが増え、添削やコメントをつけて返却する数」が倍増していて、素晴らしいことであり、先生方の努力に敬意を表したい。しかし、学年によってはレポートが多すぎ、あるいは実習終了時間が大幅に伸び、予習・復習時間を強く圧迫し、学生を苦しめている側面もある。必要に応じ、調整する必要がある。
- 2) 「SA・TA（上級生や大学院生の授業補助者）制度」は学生たちにも好評なので、全学的に増やしていったらよいと思う。
- 3) 「授業時間外に他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりする」学生が増えており、素晴らしいことだと思う。
- 4) 「教員に親近感を感じた」学生が増えており、学生と教員との間のいい雰囲気が醸成されて来ているようだ。
- 5) 薬学部の学生は「多くの時間を学習に費やし、積極的に教員に質問する」。一方、全学平均よりも「部活や同好会、アルバイト、読書等」には消極的である。
- 6) 「専門分野の知識や能力、分析力や問題解析能力」は向上しているが、「リーダーシップや人間関係を構築する力」が後退している。さらに4年前と比べ、「文章表現能力、外国語の運用能力、コミュニケーションの能力」が後退している。今後、注視してゆく必要があると思われる。

2. 大学における学習状況について（薬学部）

（１）あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

A. 実験・実習・フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ

薬学部2019
年度 (%)

薬学部
2016年度 (%)

全学

2019年度 (%)

1. ひんぱんにあった		22	22.0%
2. ときどきあった		33	52.4%
3. あまりなかった		7	11.1%
4. まったくなかった		1	1.6%
合計		63	100.0%

27	22
49	46
18	25
5	7

B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ

1. ひんぱんにあった		22	34.9%
2. ときどきあった		35	55.6%
3. あまりなかった		5	7.9%
4. まったくなかった		1	1.6%
合計		63	100.0%

29	36
47	51
19	10
4	3

C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する

1. ひんぱんにあった		16	25.4%
2. ときどきあった		37	58.7%
3. あまりなかった		8	12.7%
4. まったくなかった		2	3.2%
合計		63	100.0%

22	25
52	54
23	18
5	2

D. 授業の一環でボランティア活動をする

1. ひんぱんにあった		3	4.8%
2. ときどきあった		4	6.3%
3. あまりなかった		11	17.5%
4. まったくなかった		45	71.4%
合計		63	100.0%

1	3
11	7
23	24
65	66

E. 学生自身が文献や資料を調べる

1. ひんぱんにあった		27	43.5%
2. ときどきあった		27	43.5%
3. あまりなかった		7	11.3%
4. まったくなかった		1	1.6%
合計		62	100.0%

32	30
50	53
16	14
3	3

F. 定期的に小テストやレポートが課される

1. ひんぱんにあった		45	71.4%
2. ときどきあった		18	28.6%
3. あまりなかった		0	0.0%
4. まったくなかった		0	0.0%
合計		63	100.0%

43	53
47	43
8	4
2	0

G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する

1. ひんぱんにあった		25	40.3%
2. ときどきあった		27	43.5%
3. あまりなかった		9	14.5%
4. まったくなかった		1	1.6%
合計		62	100.0%

薬学部	全学
17	19
42	44
30	29
11	7

H. 学生が自分の考えや研究を発表する

1. ひんぱんにあった		24	38.7%
2. ときどきあった		34	54.8%
3. あまりなかった		4	6.5%
4. まったくなかった		0	0.0%
合計		62	100.0%

30	24
53	60
13	14
5	2

I. 授業中に学生同士が議論をする

1. ひんばんにあった		23	37.1%
2. ときどきあった		35	56.5%
3. あまりなかった		4	6.5%
4. まったくなかった		0	0.0%
合計		62	100.0%

33	28
51	57
15	15
5	0

J. 授業で検討する

1. ひんばんにあった		8	12.9%
2. ときどきあった		17	27.4%
3. あまりなかった		28	45.2%
4. まったくなかった		9	14.5%
合計		62	100.0%

7	10
50	38
26	41
17	11

K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる

1. ひんばんにあった		9	14.5%
2. ときどきあった		22	35.5%
3. あまりなかった		27	43.5%
4. まったくなかった		4	6.5%
合計		62	100.0%

5	9
49	41
30	40
16	10

L. 取りたい授業を履修登録できなかった

1. ひんばんにあった		6	9.7%
2. ときどきあった		5	8.1%
3. あまりなかった		8	12.9%
4. まったくなかった		43	69.4%
合計		62	100.0%

3	5
20	15
29	19
50	81

M. 出席することが重視される

1. ひんばんにあった		29	46.0%
2. ときどきあった		25	39.7%
3. あまりなかった		8	12.7%
4. まったくなかった		1	1.6%
合計		63	100.0%

薬学部	全学
47	43
38	41
10	15
5	1

N. SA・TA（上級生や大学院生の授業補助者）から補助を受ける

1. ひんばんにあった		11	17.7%
2. ときどきあった		30	48.4%
3. あまりなかった		12	19.4%
4. まったくなかった		9	14.5%
合計		62	100.0%

8	8
38	22
34	28
20	42

(2) 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

A. 授業課題のために図書館の資料を利用した

薬学部2019年度 (%)

薬学部2016年度 (%) 全学2019年度 (%)

1. ひんぱんにあった		9	14.3%
2. ときどきあった		34	54.0%
3. あまりなかった		13	20.6%
4. まったくなかった		7	11.1%
合計		63	100.0%

21	19
46	52
22	23
11	6

B. 授業課題のためにインターネット上の情報を利用した

1. ひんぱんにあった		52	82.5%
2. ときどきあった		11	17.5%
3. あまりなかった		0	0.0%
4. まったくなかった		0	0.0%
合計		63	100.0%

48	53
42	44
7	3
3	0

C. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした

1. ひんぱんにあった		42	66.7%
2. ときどきあった		16	25.4%
3. あまりなかった		4	6.3%
4. まったくなかった		1	1.6%
合計		63	100.0%

47	55
35	38
10	6
7	1

D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった

1. ひんぱんにあった		4	6.6%
2. ときどきあった		5	8.2%
3. あまりなかった		10	16.4%
4. まったくなかった		42	68.9%
合計		61	100.0%

3	3
18	11
35	26
43	61

E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした

1. ひんぱんにあった		33	52.4%
2. ときどきあった		25	39.7%
3. あまりなかった		4	6.3%
4. まったくなかった		1	1.6%
合計		63	100.0%

39	36
45	50
9	12
7	3

F. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた

1. ひんぱんにあった		5	7.9%
2. ときどきあった		4	6.3%
3. あまりなかった		24	38.1%
4. まったくなかった		30	47.6%
合計		63	100.0%

3	4
18	12
35	41
43	43

G. 授業を欠席した

薬学部2019年度 (%)

薬学部2016年度 (%) 全学2019年度 (%)

1. ひんぱんにあった		5	8.1%
2. ときどきあった		12	19.4%
3. あまりなかった		30	48.4%
4. まったくなかった		15	24.2%
合計		62	100.0%

3	4
26	18
40	45
31	33

H. 授業に遅刻した

1. ひんぱんにあった		3	4.8%
2. ときどきあった		15	24.2%
3. あまりなかった		15	24.2%

7	2
20	12
29	28

4. まったくなかった	 29	46.8%
合計	62	100.0%

43	57
----	----

I. 授業をつまらなく感じた

1. ひんぱんにあった	 9	14.5%
2. ときどきあった	 31	50.0%
3. あまりなかった	 19	30.6%
4. まったくなかった	 3	4.8%
合計	62	100.0%

18	13
47	53
26	28
9	5

J. 授業中に居眠りをした

1. ひんぱんにあった	 5	8.1%
2. ときどきあった	 38	61.3%
3. あまりなかった	 14	22.6%
4. まったくなかった	 5	8.1%
合計	62	100.0%

14	6
39	46
32	30
16	19

K. 教員の研究プロジェクトに参加した

1. ひんぱんにあった	 4	6.5%
2. ときどきあった	 3	4.8%
3. あまりなかった	 10	16.1%
4. まったくなかった	 45	72.6%
合計	62	100.0%

2	3
8	5
22	22
69	70

L. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した

1. ひんぱんにあった	 3	5.0%
2. ときどきあった	 3	5.0%
3. あまりなかった	 13	21.7%
4. まったくなかった	 41	68.3%
合計	60	100.0%

3	7
16	15
29	24
51	55

M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした

1. ひんぱんにあった	 3	4.9%
2. ときどきあった	 9	14.8%
3. あまりなかった	 9	14.8%
4. まったくなかった	 40	65.6%
合計	61	100.0%

薬学部

全学

3	4
18	23
24	27
55	46

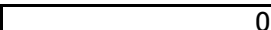
N. 教員に親近感を感じた

1. ひんぱんにあった	 11	17.5%
2. ときどきあった	 30	47.6%
3. あまりなかった	 13	20.6%
4. まったくなかった	 9	14.3%
合計	63	100.0%

11	13
49	39
26	27
14	20

(3) 入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

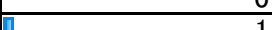
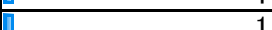
A. 授業や実験に出る

		薬学部 年度 (%)	2019	薬学部 2016年度 (%)	全学 2019年度 (%)
1. 全然ない		0	0.0	2	1
2. 1 時間未満		0	0.0	1	1
3. 1 ～ 2 時間		0	0.0	2	1
4. 3 ～ 5 時間		4	0.1	4	6
5. 6 ～ 1 0 時間		0	0.0	16	8
6. 1 1 ～ 1 5 時間		2	0.0	3	12
7. 1 6 ～ 2 0 時間		5	9.6	10	17
8. 2 0 時間以上		52	82.5	62	53
合計		63			

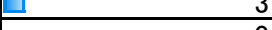
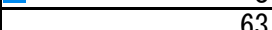
B. 授業時間以外に勉強や宿題をする

1. 全然ない		0	0.0	3	2
2. 1時間未満		0	0.0	5	8
3. 1～2時間		14	22.2	12	23
4. 3～5時間		11	17.5	22	26
5. 6～10時間		12	19.0	20	18
6. 11～15時間		11	17.5	8	10
7. 16～20時間		11	17.5	14	8
8. 20時間以上		4	0.1	16	5
合計		63			

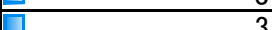
C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する

1. 全然ない		17	27.0	33	38
2. 1時間未満		27	42.9	32	37
3. 1～2時間		14	22.2	21	18
4. 3～5時間		1	1.6	8	4
5. 6～10時間		2	3.2	3	1
6. 11～15時間		0	0.0	0	0
7. 16～20時間		1	1.6	0	0
8. 20時間以上		1	1.6	2	1
合計		63	1.0		

D. 部活動や同好会に参加する

1. 全然ない		38	60.3	50	47
2. 1時間未満		6	9.5	9	12
3. 1～2時間		6	9.5	16	14
4. 3～5時間		7	11.1	14	14
5. 6～10時間		3	4.8	7	8
6. 11～15時間		0	0.0	1	0
7. 16～20時間		0	0.0	1	0
8. 20時間以上		3	4.8	2	4
合計		63	1.0		

E. 大学外でアルバイトや仕事をする

1. 全然ない		39	61.9	68	50
2. 1時間未満		2	3.2	2	2
3. 1～2時間		2	3.2	2	4
4. 3～5時間		5	7.9	7	14
5. 6～10時間		8	12.7	12	15
6. 11～15時間		1	1.6	4	7
7. 16～20時間		3	4.8	2	4
8. 20時間以上		3	4.8	3	4
合計		63	1.0		

F. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）

1. 全然ない		35	55.6
2. 1時間未満		16	25.4
3. 1～2時間		5	7.9
4. 3～5時間		5	7.9
5. 6～10時間		0	0.0
6. 11～15時間		0	0.0
7. 16～20時間		0	0.0
8. 20時間以上		2	3.2
合計		63	1.0

45	48
22	25
15	14
8	7
5	2
5	1
1	0
1	3

G. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

1. 全然ない		4	6.3
2. 1時間未満		2	3.2
3. 1～2時間		10	15.9
4. 3～5時間		13	20.6
5. 6～10時間		19	30.2
6. 11～15時間		5	7.9
7. 16～20時間		2	3.2
8. 20時間以上		8	12.7
合計		63	1.0

9	3
4	8
22	21
34	23
15	20
9	11
1	2
7	12

H. ボランティア活動に参加する

1. 全然ない		56	88.9
2. 1時間未満		2	3.2
3. 1～2時間		3	4.8
4. 3～5時間		0	0.0
5. 6～10時間		1	1.6
6. 11～15時間		0	0.0
7. 16～20時間		0	0.0
8. 20時間以上		1	1.6
合計		63	1.0

93	80
1	6
1	6
3	5
0	1
0	0
2	0
0	1

I. メール、Facebook、LINE等の利用

1. 全然ない		0	0.0
2. 1時間未満		13	20.6
3. 1～2時間		11	17.5
4. 3～5時間		10	15.9
5. 6～10時間		14	22.2
6. 11～15時間		5	7.9
7. 16～20時間		3	4.8
8. 20時間以上		7	11.1
合計		63	1.0

薬学部	全学
8	1
20	16
26	27
27	22
11	18
2	6
2	3
4	7

J. 平日（授業のある日）に予習・復習を行う主な時間帯
（あてはまるものをすべて選んでください。）

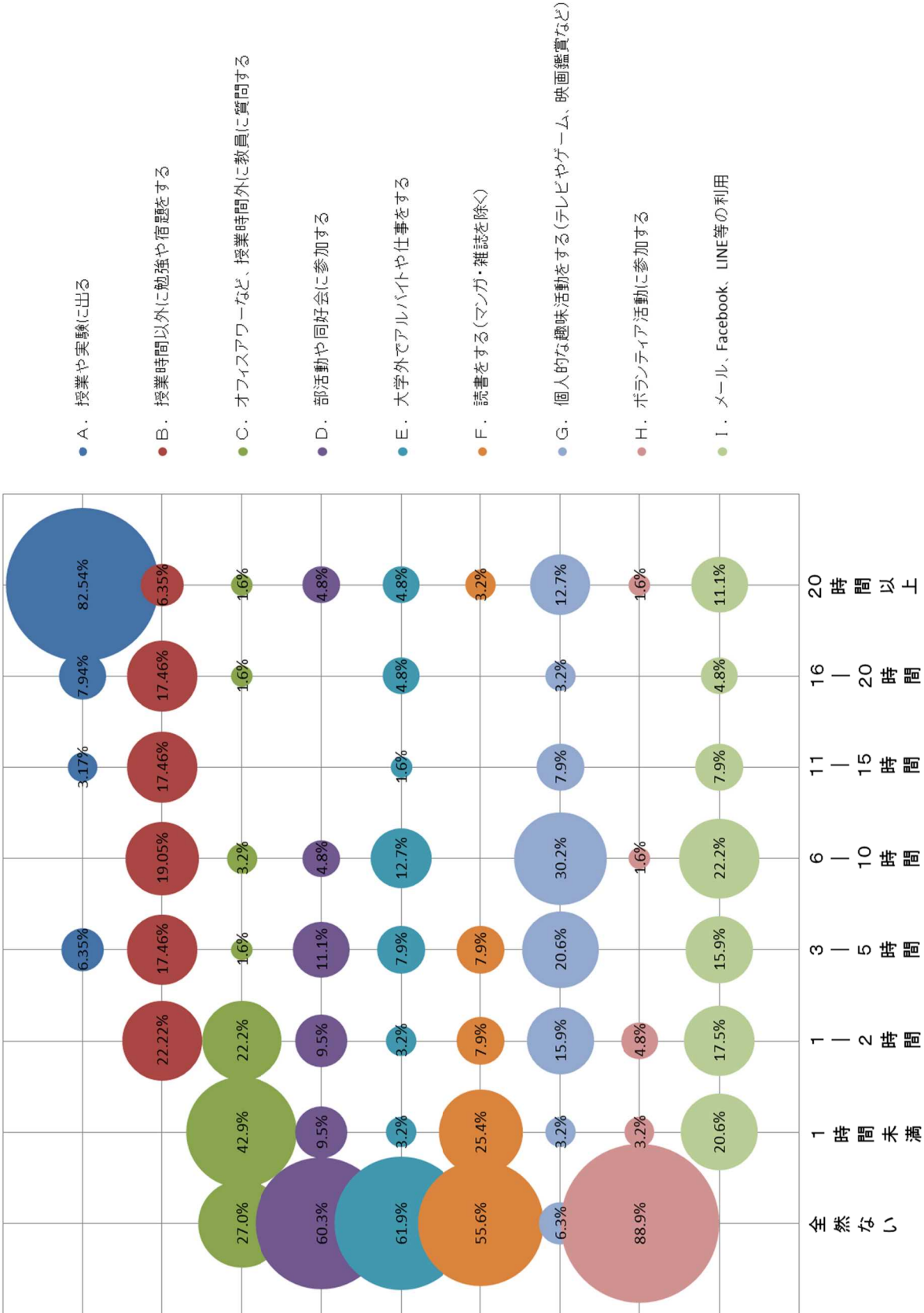
1. 朝（始業前）		10	10.9
2. 休み時間など授業		15	16.3
3. 放課後		26	28.3
4. 帰宅後（夕方・夜		22	23.9
5. 帰宅後（深夜）		19	20.7
6. 全くしない		0	0.0
合計		92	1.0

12	7
11	17
29	21
26	30
21	21
2	3

K. 休日（授業のない日）に予習・復習を行う主な時間帯
（あてはまるものをすべて選んでください。）

1. 朝		8	8.8	8	6
2. 日中		23	25.3	22	23
3. 夕方		20	22.0	26	23
4. 夜		25	27.5	27	28
5. 深夜		12	13.2	15	14
6. 全くしない		3	3.3	3	7
合計		91	1.0		

2019(3)入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりの時間を費やしましたか



(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

A. 一般的な教養

薬学部
2019年度 (%)

薬学部
2016年度 (%)

全学2019
年度 (%)

1. 大きく増えた	9	20.00%
2. 増えた	28	62.22%
3. 変化なし	7	15.56%
4. 減った	1	2.22%
5. 大きく減った	0	0.00%
合計	45	100.00%

18	15
61	68
16	15
5	2
1	1

B. 分析力や問題解決能力

1. 大きく増えた	9	19.57%
2. 増えた	26	56.52%
3. 変化なし	11	23.91%
4. 減った	0	0.00%
5. 大きく減った	0	0.00%
合計	46	100.00%

16	11
59	58
21	27
3	2
1	1

C. 専門分野や学科の知識

1. 大きく増えた	29	51.79%
2. 増えた	25	44.64%
3. 変化なし	2	3.57%
4. 減った	0	0.00%
5. 大きく減った	0	0.00%
合計	56	100.00%

31	33
56	60
8	7
4	0
1	0

D. 批判的に考える能力

1. 大きく増えた	4	7.84%
2. 増えた	24	47.06%
3. 変化なし	22	43.14%
4. 減った	1	1.96%
5. 大きく減った	0	0.00%
合計	51	100.00%

9	9
51	52
33	38
6	1
1	0

E. 異文化の人々に関する知識

1. 大きく増えた	2	3.77%
2. 増えた	11	20.75%
3. 変化なし	40	75.47%
4. 減った	0	0.00%
5. 大きく減った	0	0.00%
合計	53	100.00%

5	9
28	36
60	52
2	2
5	0

F. リーダーシップの能力

薬学部
2019年度 (%)

薬学部
2016年度 (%)

全学 2019
年度 (%)

1. 大きく増えた	5	9.26%
2. 増えた	10	18.52%
3. 変化なし	38	70.37%
4. 減った	1	1.85%
5. 大きく減った	0	0.00%
合計	54	100.00%

8	8
37	37
47	52
5	2
3	0

G. 人間関係を構築する能力

1. 大きく増えた	6	12.50%
2. 増えた	21	43.75%
3. 変化なし	16	33.33%

12	13
48	54
32	27

4. 減った		3	6.25%
5. 大きく減った		2	4.17%
合計		48	100.00%

5	4
3	1

H. 他の人と協力して物事を遂行する能力

1. 大きく増えた		9	18.37%
2. 増えた		24	48.98%
3. 変化なし		15	30.61%
4. 減った		1	2.04%
5. 大きく減った		0	0.00%
合計		49	100.00%

17	14
55	60
22	24
5	2
1	0

I. 異文化の人々と協力する能力

1. 大きく増えた		2	3.57%
2. 増えた		6	10.71%
3. 変化なし		45	80.36%
4. 減った		2	3.57%
5. 大きく減った		1	1.79%
合計		56	100.00%

5	4
17	30
68	63
7	2
3	1

J. 地域社会が直面する問題を理解する能力

1. 大きく増えた		3	6.00%
2. 増えた		13	26.00%
3. 変化なし		34	68.00%
4. 減った		0	0.00%
5. 大きく減った		0	0.00%
合計		50	100.00%

2	8
31	46
58	45
8	1
2	0

K. 国民が直面する問題を理解する能力

1. 大きく増えた		5	9.62%
2. 増えた		11	21.15%
3. 変化なし		35	67.31%
4. 減った		1	1.92%
5. 大きく減った		0	0.00%
合計		52	100.00%

3	5
29	37
64	55
3	2
1	0

L. 文章表現の能力

薬学部
2019年度(%)

1. 大きく増えた		4	8.00%
2. 増えた		13	26.00%
3. 変化なし		31	62.00%
4. 減った		2	4.00%
5. 大きく減った		0	0.00%
合計		50	100.00%

6	10
48	46
41	42
2	2
3	1

全学
2019年
度(%)

M. 外国語の運用能力

1. 大きく増えた		2	3.51%
2. 増えた		9	15.79%
3. 変化なし		39	68.42%
4. 減った		6	10.53%
5. 大きく減った		1	1.75%
合計		57	100.00%

11	4
51	28
30	56
5	7
2	3

N. コミュニケーションの能力

1. 大きく増えた		7	14.00%
2. 増えた		19	38.00%
3. 変化なし		22	44.00%

11	14
51	52
30	31

4. 減った		2	4.00%
5. 大きく減った		0	0.00%
合計		50	100.00%

5	3
2	0

○. プレゼンテーションの能力

1. 大きく増えた		9	18.75%
2. 増えた		19	39.58%
3. 変化なし		18	37.50%
4. 減った		1	2.08%
5. 大きく減った		1	2.08%
合計		48	100.00%

9	13
56	54
30	30
4	3
1	0

P. 数理的な能力

1. 大きく増えた		10	19.61%
2. 増えた		20	39.22%
3. 変化なし		20	39.22%
4. 減った		1	1.96%
5. 大きく減った		0	0.00%
合計		51	100.00%

8	7
48	30
38	56
4	5
2	2

Q. コンピュータの操作能力

1. 大きく増えた		11	22.45%
2. 増えた		25	51.02%
3. 変化なし		13	26.53%
4. 減った		0	0.00%
5. 大きく減った		0	0.00%
合計		49	100.00%

10	19
54	60
31	20
3	0
3	0

R. 時間を有効に利用する能力

1. 大きく増えた		14	28.57%
2. 増えた		21	42.86%
3. 変化なし		10	20.41%
4. 減った		4	8.16%
5. 大きく減った		0	0.00%
合計		49	100.00%

渠学部 2016年度 (%)	全学 2018年度 (%)
9	15
54	53
31	27
5	4
1	2

S. グローバルな問題の理解

1. 大きく増えた		3	5.56%
2. 増えた		13	24.07%
3. 変化なし		38	70.37%
4. 減った		0	0.00%
5. 大きく減った		0	0.00%
合計		54	100.00%

4	4
25	39
64	54
3	2
5	1

T. 卒業後に就職するための準備の程度

1. 大きく増えた		7	13.73%
2. 増えた		13	25.49%
3. 変化なし		31	60.78%
4. 減った		0	0.00%
5. 大きく減った		0	0.00%
合計		51	100.00%

5	13
43	41
48	44
1	1
3	0

2019 年度は学部開設 3 年目となったため、今回の調査ではこれまでの 1 年生に加え 3 年生も対象に含まれた。演習科目や臨地実習を履修する 3 年生と、座学中心に全学共通教育科目を履修する 1 年生の回答が混在する今回の結果は、前年度までの 1 年生のみの回答とは背景が異なる。それにより、回答者全 105 人中、1 年生、3 年生の回答割合がそれぞれ約 73%、27%であることから、回答結果は割合の多い 1 年生の状況が多分に反映しているといえるが、約 3 割の 3 年生の影響もあるため質的に異なる。よって、前年度の回答結果との単純な比較は難しいが、学修状況を踏まえ考察する。

2. 大学における学習状況について

(1) あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか

全 14 項目のうち「ときどきあった・ひんぱんにあった」の肯定的回答と「あまりなかった・まったくなかった」の否定的回答との割合は、2018 年度と比較すると多くの項目で大きな変化はなく概ね授業で経験する機会があったものと推測される。特徴的な項目について考察する。

A：実習・フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ

2018 年度は「ときどきあった・ひんぱんにあった」が 80%であったのに対して、2019 年度は約 60%と大きく減少した。これは、2018 年度 1 年生は看護実践基盤実習（基礎）1 を 8 月に実施しており、「学修行動調査」の時期と同時期であったことから、80%と高かったものと推察する。2019 年度 1 年生は、「学修行動調査」の時期ではなく年明け 1 月に実習を実施していることから、肯定的な回答者の割合が減少したと考える。

D：授業の一環でボランティア活動をする

2019 年度は「あまりなかった・まったくなかった」が約 90%を占めていた。2018 年度も同様に、約 90%を占めていた。前年度同様の考察になるが、授業の一環でボランティア活動をすることの適・不適や可能・不可能については、授業や科目の内容によるところが大きい。ボランティア活動を全学共通教育科目に取り入れることの検討の余地は十分にあると考えられる。

G：教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する

2018 年度は「ときどきあった・ひんぱんにあった」が約 90%であったのに対して、2019 年度は約 60%と大きく減少した。3 年生は本格的に臨地実習が始まっており、実習記録などの提出物へのコメントを随時している。しかし、2018 年度 1 年生が調査前の 8 月に臨地実習があったのに対し、2019 年度 1 年生はその時期に実習がなかったため、肯定的な回答が減少したものと考える。

J：授業で検討するテーマを学生が設定する

2018 年度は「ときどきあった・ひんぱんにあった」が約 90%であったのに対して、2019 年度は約 60%と大きく減少した。臨地実習におけるカンファレンスでは、テーマを学生主体で決定している。2018 年度 1 年生は臨地実習を 8 月に実施したため、学生主体でカンファレンステーマを決定していた。しかし、2019 年度の 1 年生において臨地実習はなく講義科目のみであり、授業内で検討するテ

ーマを学生が設定する機会が少なかったものと考察する。

N : SA・TA（上級生や大学院生の授業補助者）から補助を受ける

2018年度は「あまり・まったくなかった」が約80%を占めていた。2019年度は約90%を占めていた。看護学部は大学院生が在籍していないとはいえ、薬学部では70%近くの学生が「ときどき・ひんぱんにあった」と回答している。上級生が増えている看護学部でも、彼らを授業の補助に活用することを検討してもよいと考える。

(2) 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか

A : 授業課題のために図書館の資料を利用したでは、2018年度同様「ときどき・ひんぱんにあった」が約70%であった。図書離れが懸念されているが、インターネットからの情報と図書館の図書をうまく活用しながら、学習を進めていると考える。

B・Cのインターネットを利用した機会では、2018年度同様に「ときどき・ひんぱんにあった」がどちらも90%を超え割合が高かった。看護学部はテキストにiPadを利用しており、普段の授業からインターネットを学習の方法として取り入れて活用していると考え。

E : 授業時間外における他学生との学習では、2018年度は約80%だったが2019年度は約90%と上昇していた。3年生は臨地実習で患者を受け持つため、授業時間外でも受け持ち患者の看護問題について他学生と解決策等を検討する機会を設けていたと考える。

I : 授業をつまらなく感じた J : 授業中に居眠りをしたでは、2019年度は授業をつまらなく感じたで、「ときどき・ひんぱんにあった」学生は約70%で2018年度と同様だった。2017年度と比較すると約10%減少した状況を維持できている。居眠りをしたでは、「ときどき・ひんぱんにあった」学生は約40%で、2018年度の約55%から減少した。この結果より、授業がつまらなく感じることはあるものの居眠りをしてしまう学生が減ったことは、学生の学習意欲が向上してきていると考える。授業の展開については、教員個々が検討しなければならない課題である。

L : 単位とは関係のない自主的な学習会への参加では、2018年度が「ときどき・ひんぱんにあった」の約5%に対し、2019年度は約30%と飛躍的に上昇した。3年生の臨地実習で、看護技術を修得しなければならない必要性を実感し、時間外を利用して技術練習に励んでいた姿もあったことから上昇したと考える。

(3) 入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか

2018年度と比較して、殆ど変化はみられなかった。しかし、B : 授業時間以外の学習では、2018年度が6時間以上で約25%だったものが、2019年度では約40%と増加している。臨地実習における予習・復習のため増加していると考え。K : 休日（授業のない日）に予習・復習を行う主な時間帯では、夜～深夜にかけてが、2018年度・2019年度ともに約50%であった。臨地実習からの帰宅後、夜間に実施してる状況が推察される。

(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか

全体的に 2018 年度と比較して大きな変化はなかった。入学した時点と比べて、A・C・Q の一般的な教養に加え、専門分野の知識、コンピュータの操作能力において、約 70%～90%の学生が「増えた～大きく増えた」と回答してる。大学ならではの能力や知識が培われたものとする。

全項目で、入学した時点と比べて「減った～大きく減った」の該当者がいた。しかし、ほとんどが 5%程度以下とわずかな割合であった。今後は「変化なし」と回答した学生が、能力や知識で「増えた～大きく増えた」と増加するように、機会を増やせるような関わりが必要であるとする。

2. 大学における学習状況について（看護学部）

（１）あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

A. 実験・実習・フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ



C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する



D. 授業の一環でボランティア活動をする



E. 学生自身が文献や資料を調べる



F. 定期的に小テストやレポートが課される



G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する



H. 学生が自分の考えや研究を発表する



I. 授業中に学生同士が議論をする



J. 授業で検討するテーマを学生が設定する



K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる



L. 取りたい授業を履修登録できなかった



M. 出席することが重視される



N. SA・TA（上級生や大学院生の授業補助者）から補助を受ける



(2) 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

A. 授業課題のために図書館の資料を利用した



B. 授業課題のためにインターネット上の情報を利用した



C. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした



D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった



E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした



F. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた



G. 授業を欠席した



H. 授業に遅刻した



I. 授業をつまらなく感じた



J. 授業中に居眠りをした



K. 教員の研究プロジェクトに参加した



L. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した



M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした

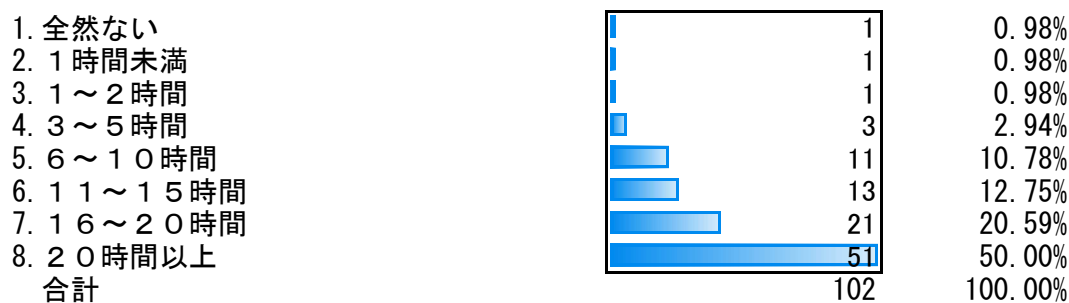


N. 教員に親近感を感じた

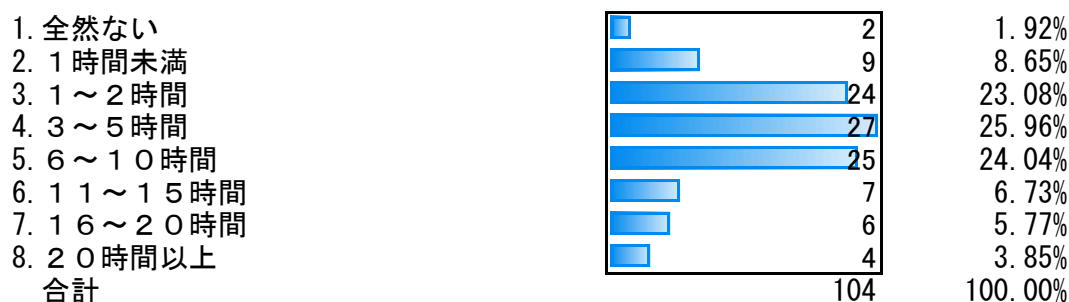


(3) 入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

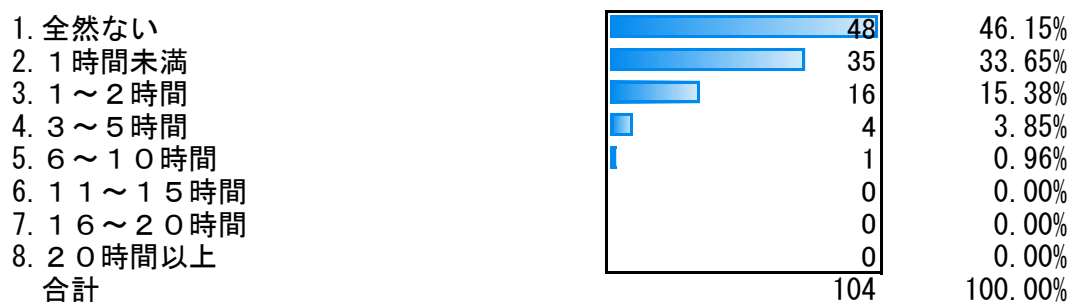
A. 授業や実験に出る



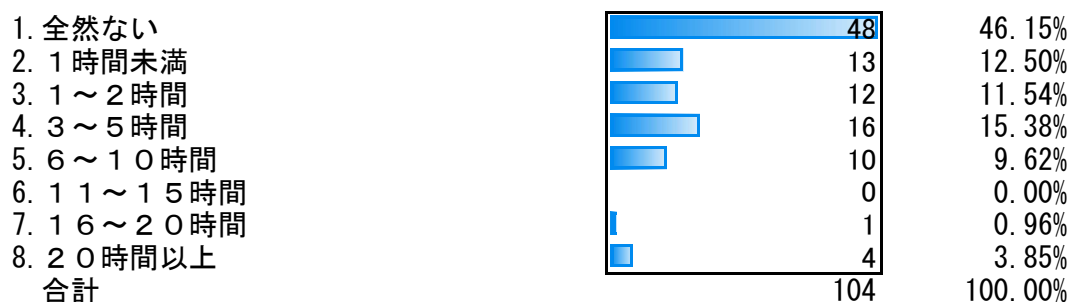
B. 授業時間以外に勉強や宿題をする



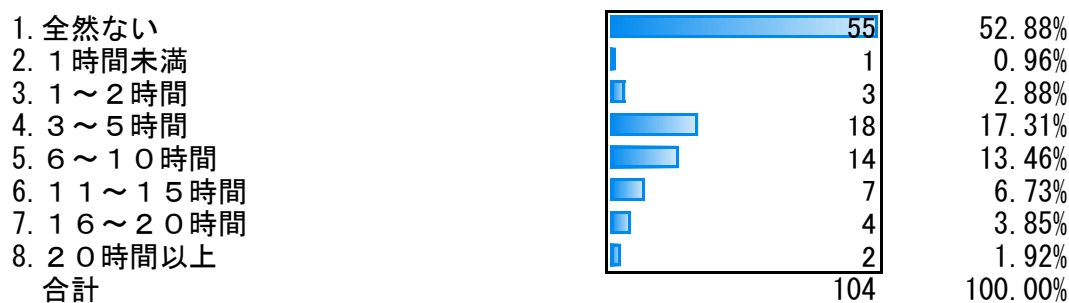
C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する



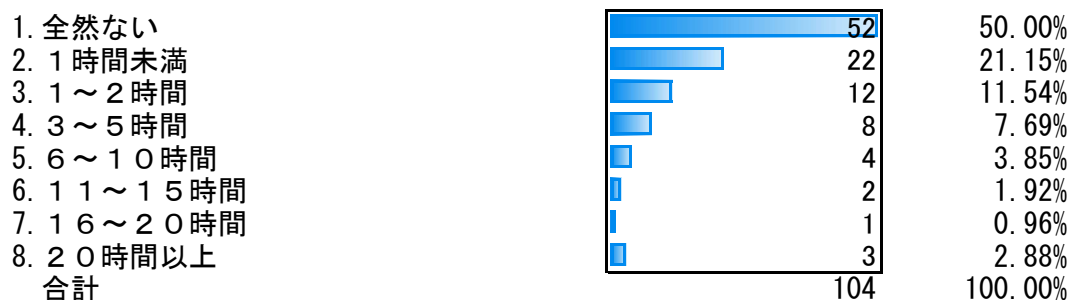
D. 部活動や同好会に参加する



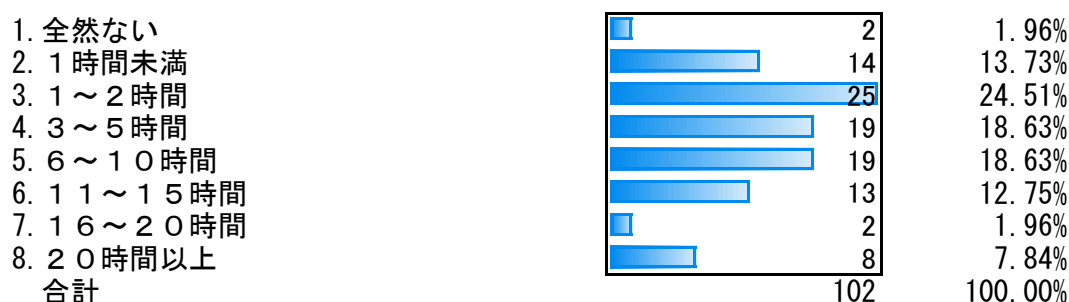
E. 大学外でアルバイトや仕事をする



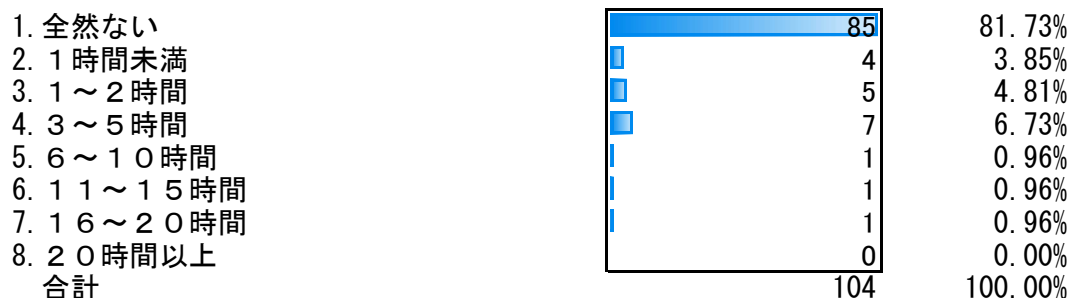
F. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）



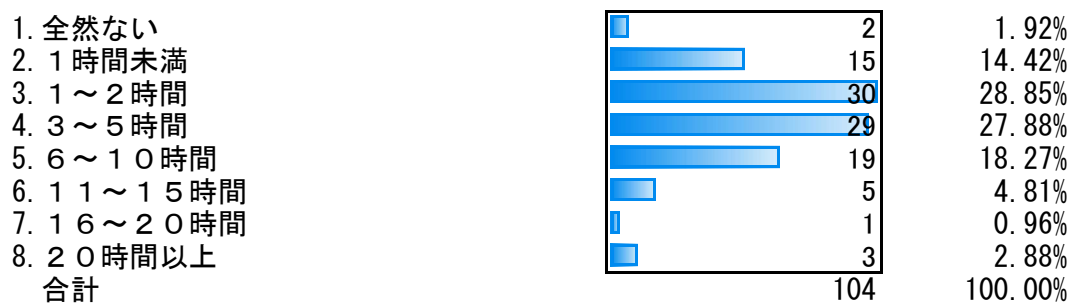
G. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）



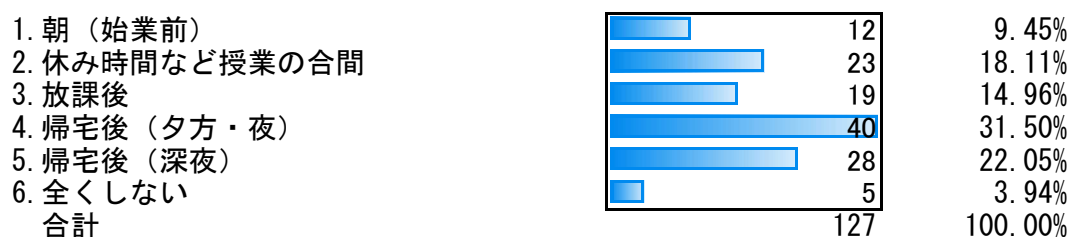
H. ボランティア活動に参加する



I. メール、Facebook、LINE等の利用



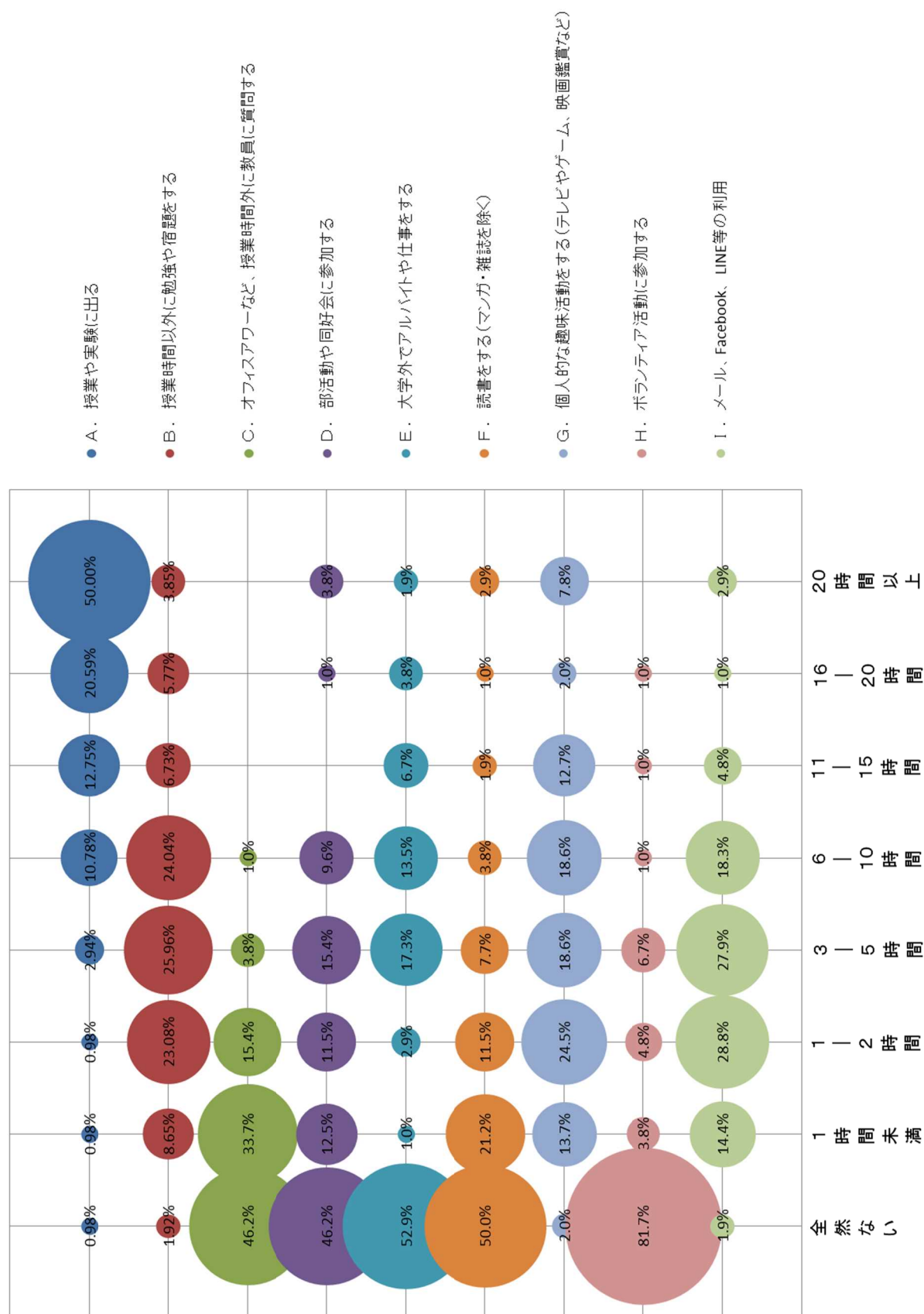
J. 平日（授業のある日）に予習・復習を行う主な時間帯 （あてはまるものをすべて選んでください。）



K. 休日（授業のない日）に予習・復習を行う主な時間帯 （あてはまるものをすべて選んでください。）



2019(3)入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりのどのくらいの時間を費やしましたか



(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

A. 一般的な教養



B. 分析力や問題解決能力



C. 専門分野や学科の知識



D. 批判的に考える能力



E. 異文化の人々に関する知識



F. リーダーシップの能力



G. 人間関係を構築する能力



H. 他の人と協力して物事を遂行する能力



I. 異文化の人々と協力する能力



J. 地域社会が直面する問題を理解する能力



K. 国民が直面する問題を理解する能力



L. 文章表現の能力



M. 外国語の運用能力

1. 大きく増えた	4	4.35%
2. 増えた	17	18.48%
3. 変化なし	62	67.39%
4. 減った	6	6.52%
5. 大きく減った	3	3.26%
合計	92	100.00%

N. コミュニケーションの能力

1. 大きく増えた	11	14.10%
2. 増えた	34	43.59%
3. 変化なし	29	37.18%
4. 減った	3	3.85%
5. 大きく減った	1	1.28%
合計	78	100.00%

O. プレゼンテーションの能力

1. 大きく増えた	11	13.92%
2. 増えた	31	39.24%
3. 変化なし	33	41.77%
4. 減った	4	5.06%
5. 大きく減った	0	0.00%
合計	79	100.00%

P. 数理的な能力

1. 大きく増えた	2	2.17%
2. 増えた	15	16.30%
3. 変化なし	66	71.74%
4. 減った	5	5.43%
5. 大きく減った	4	4.35%
合計	92	100.00%

Q. コンピュータの操作能力

1. 大きく増えた	18	22.78%
2. 増えた	41	51.90%
3. 変化なし	18	22.78%
4. 減った	1	1.27%
5. 大きく減った	1	1.27%
合計	79	100.00%

R. 時間を有効に利用する能力

1. 大きく増えた	10	12.05%
2. 増えた	36	43.37%
3. 変化なし	32	38.55%
4. 減った	2	2.41%
5. 大きく減った	3	3.61%
合計	83	100.00%

S. グローバルな問題の理解



T. 卒業後に就職するための準備の程度



2. 大学における学習状況について（健康医療科学部）

（１）あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

A. 実験・実習・フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ



C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する



D. 授業の一環でボランティア活動をする



E. 学生自身が文献や資料を調べる



F. 定期的に小テストやレポートが課される



G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する



H. 学生が自分の考えや研究を発表する



I. 授業中に学生同士が議論をする



J. 授業で検討するテーマを学生が設定する



K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる



L. 取りたい授業を履修登録できなかった



M. 出席することが重視される



N. SA・TA（上級生や大学院生の授業補助者）から補助を受ける



(2) 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

A. 授業課題のために図書館の資料を利用した



B. 授業課題のためにインターネット上の情報を利用した



C. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした



D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった



E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした

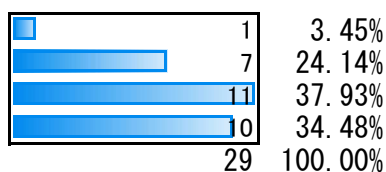


F. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた



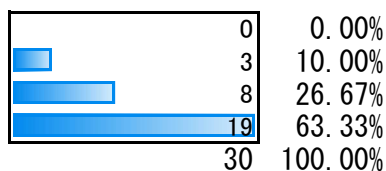
G. 授業を欠席した

1. ひんぱんにあった
2. ときどきあった
3. あまりなかった
4. まったくなかった
- 合計



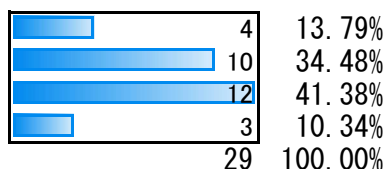
H. 授業に遅刻した

1. ひんぱんにあった
2. ときどきあった
3. あまりなかった
4. まったくなかった
- 合計



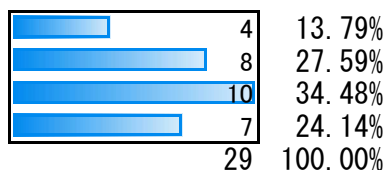
I. 授業をつまらなく感じた

1. ひんぱんにあった
2. ときどきあった
3. あまりなかった
4. まったくなかった
- 合計



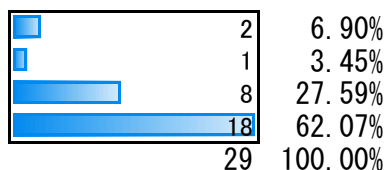
J. 授業中に居眠りをした

1. ひんぱんにあった
2. ときどきあった
3. あまりなかった
4. まったくなかった
- 合計



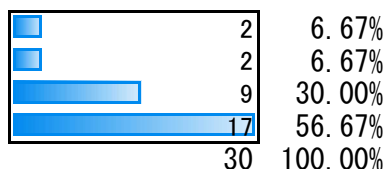
K. 教員の研究プロジェクトに参加した

1. ひんぱんにあった
2. ときどきあった
3. あまりなかった
4. まったくなかった
- 合計



L. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した

1. ひんぱんにあった
2. ときどきあった
3. あまりなかった
4. まったくなかった
- 合計



M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした

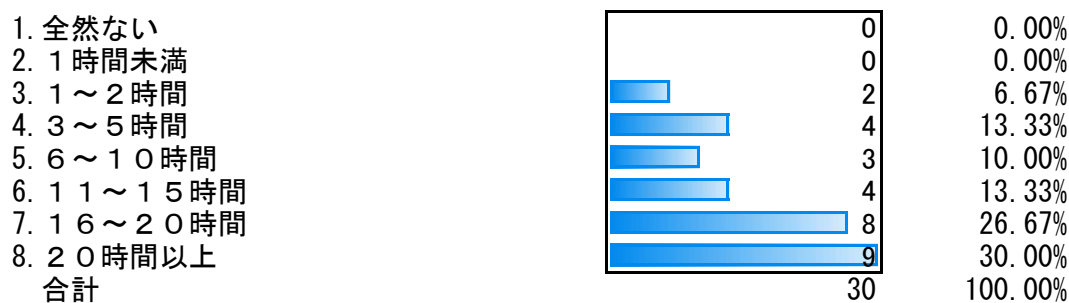


N. 教員に親近感を感じた

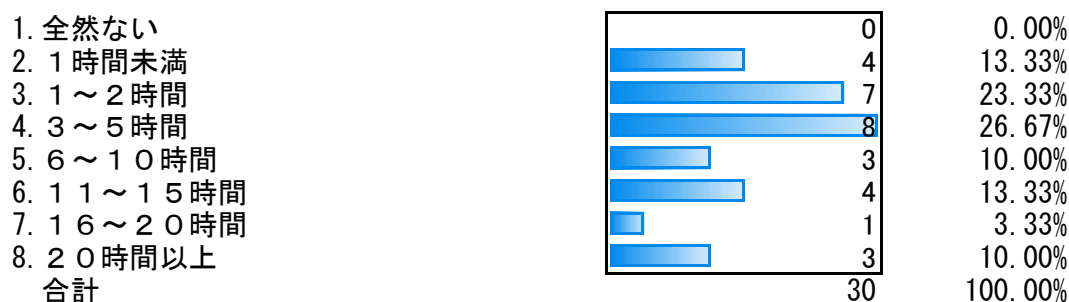


(3) 入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

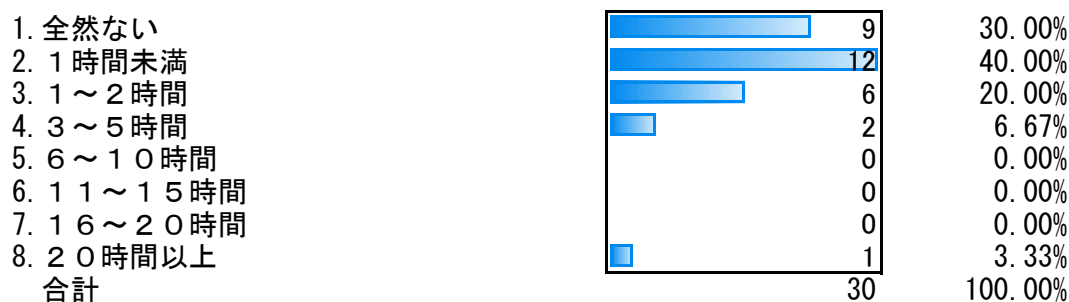
A. 授業や実験に出る



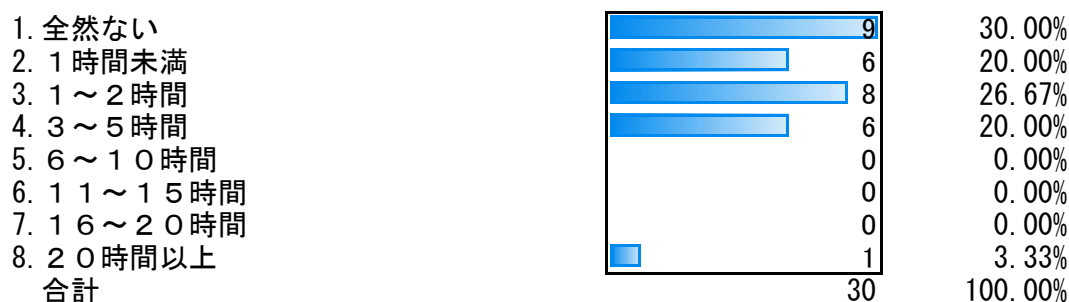
B. 授業時間以外に勉強や宿題をする



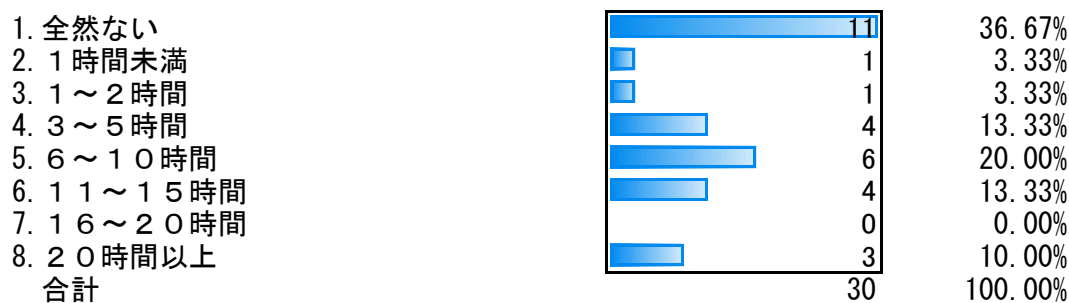
C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する



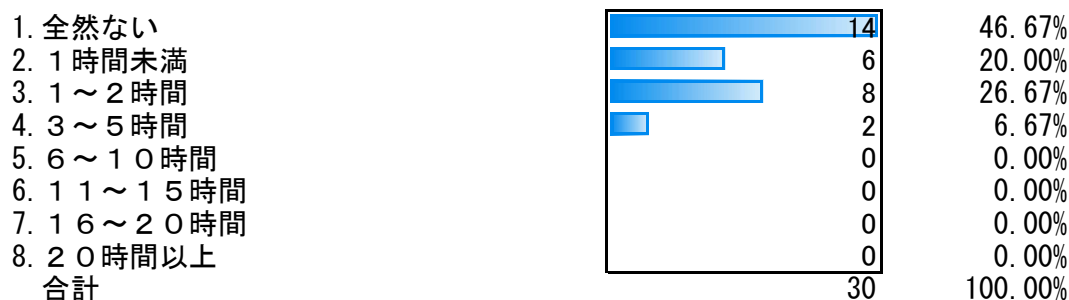
D. 部活動や同好会に参加する



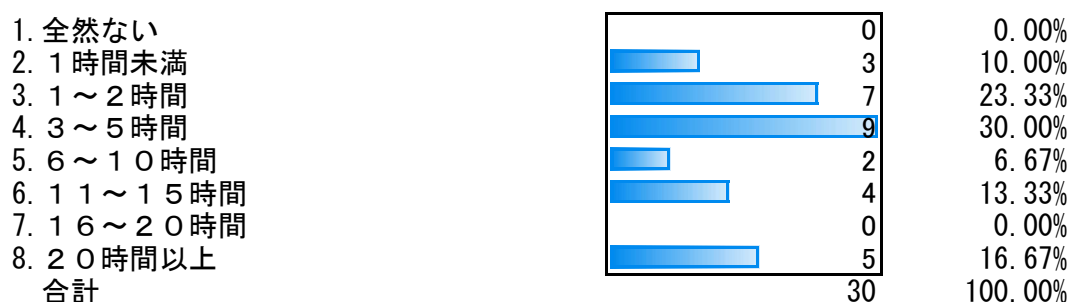
E. 大学外でアルバイトや仕事をする



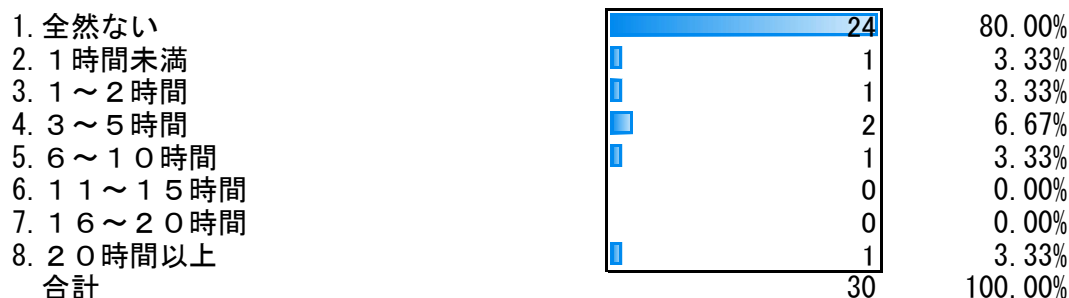
F. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）



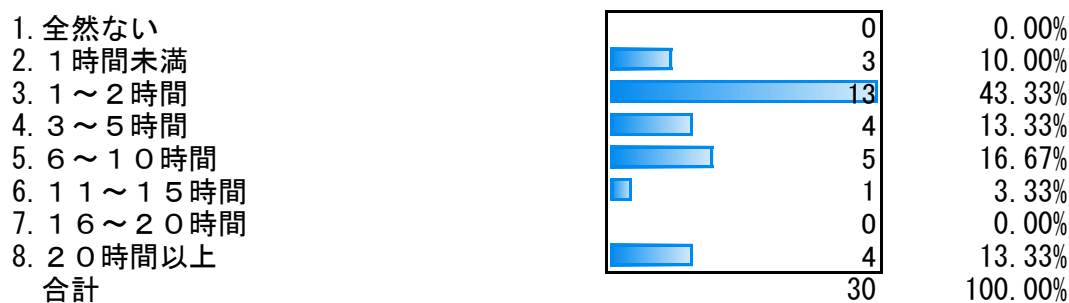
G. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）



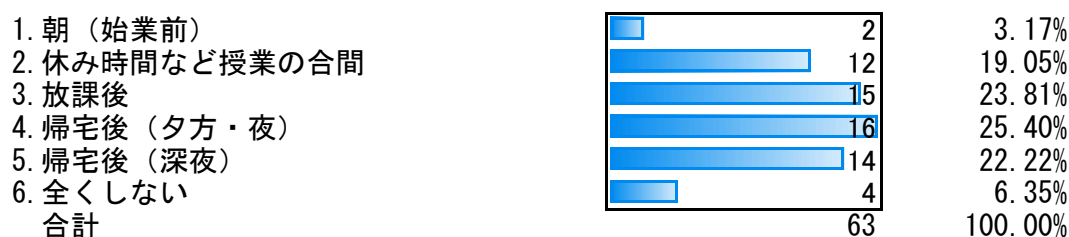
H. ボランティア活動に参加する



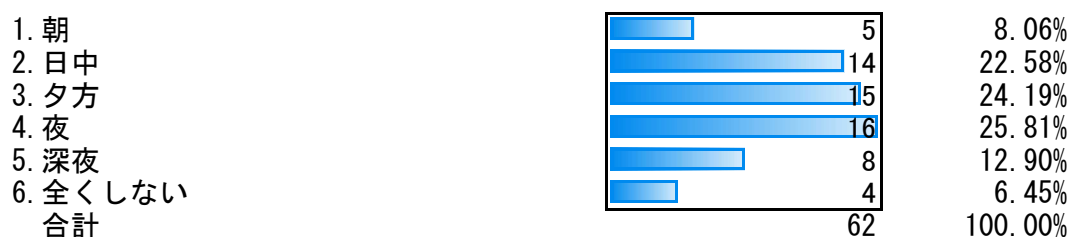
I. メール、Facebook、LINE等の利用



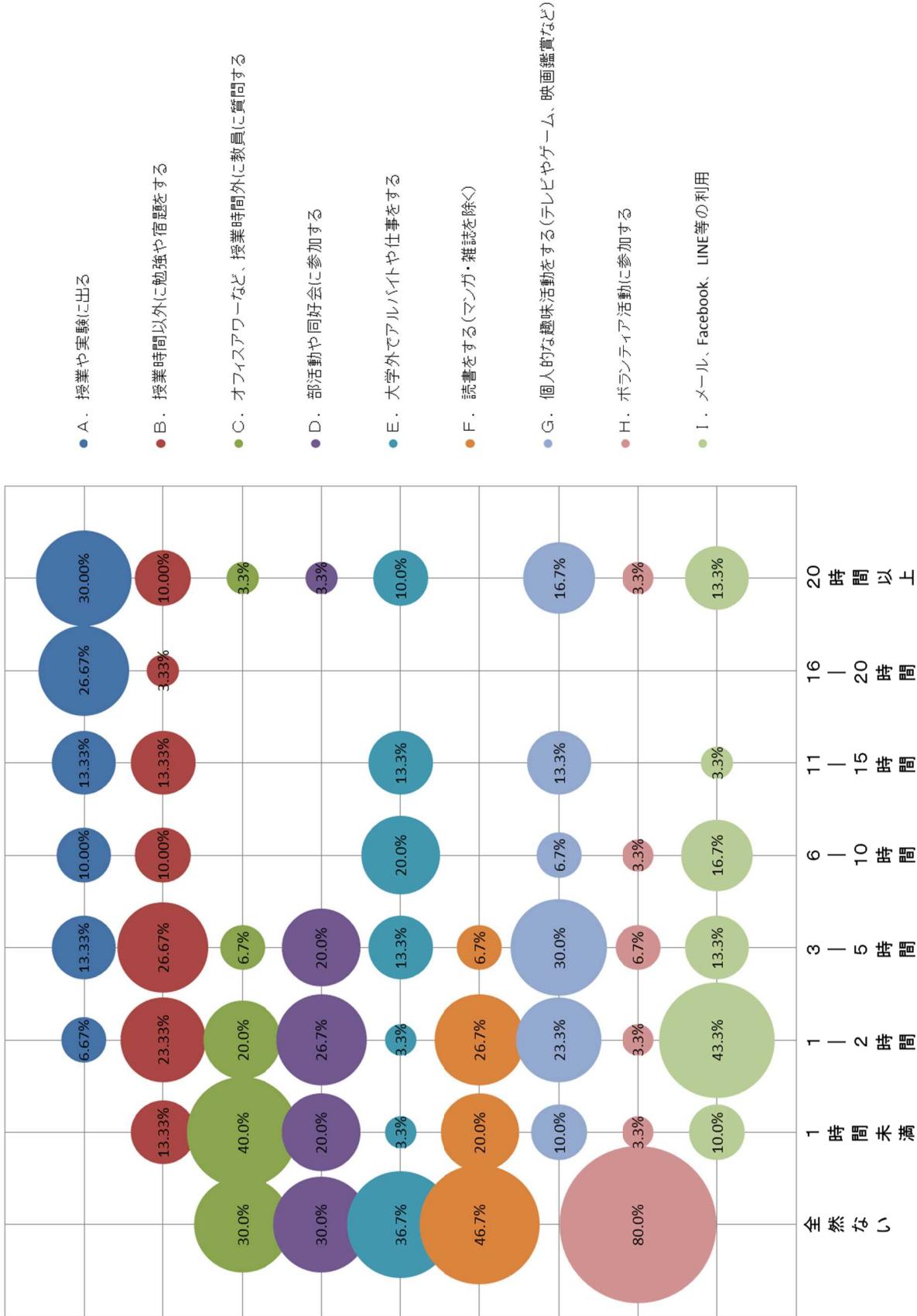
J. 平日（授業のある日）に予習・復習を行う主な時間帯 （あてはまるものをすべて選んでください。）



K. 休日（授業のない日）に予習・復習を行う主な時間帯 （あてはまるものをすべて選んでください。）



2019(3)入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりのどのくらいの時間を費やしましたか



(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

A. 一般的な教養



B. 分析力や問題解決能力



C. 専門分野や学科の知識



D. 批判的に考える能力



E. 異文化の人々に関する知識



F. リーダーシップの能力



G. 人間関係を構築する能力



H. 他の人と協力して物事を遂行する能力



I. 異文化の人々と協力する能力



J. 地域社会が直面する問題を理解する能力



K. 国民が直面する問題を理解する能力



L. 文章表現の能力



M. 外国語の運用能力



N. コミュニケーションの能力



O. プレゼンテーションの能力



P. 数理的な能力



Q. コンピュータの操作能力



R. 時間を有効に利用する能力



S. グローバルな問題の理解



T. 卒業後に就職するための準備の程度



2019 年度学修行動調査 健康医療科学部 作業療法学科考察

佐々木充直

「全学生へのアンケート調査」であるため、1 年生しか在籍していない健康医療科学部と全学年在籍している全学部を単純に比較することは不適切であると考えられる。また、健康医療科学部は過去の 1 年生の回答も存在しない。そのため、他学部との比較、経年変化については、除いて考察する。なお、作業療法学科については回答数が 11 名と少なく、回答率についても 55%と低いいため、考察内容が実態を反映していない可能性があることを付記しておく。

2. 大学における学習状況についての考察

(1)あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

「D. 授業の一環でボランティア活動をする」の割合が「ひんぱんにあった」「ときどきあった」の割合が約 27%となっており、「あまりなかった」を加えると約 73%となっている。1年生の段階において授業の一環でボランティア活動をすることの可能・不可能については科目の内容によるところが大きいためこの結果から考察することは難しいが、一定程度の意識は有しているものと考えられることから、今後、全学共通科目等においてボランティア活動を取り入れることにより更に意識の向上が期待される。

「N. SA・TA(上級生や大学院生の授業補助者)から補助を受ける」の「あまりなかった」または「まったくなかった」が約 73 % を占めている。作業療法学科は 1 年生のみで、大学院生も在籍していないことによるものと考えられるが、今後上級生を授業に入れる効果についても検討していく必要があると考えられる。

(2)大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のことをどのくらいしましたか。

「B. 授業課題のためにインターネット上の情報を利用した」の質問項目で、「ときどきあった」または「ひんぱんにあった」と回答している学生の割合が 90%以上、「C. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした」の質問項目では 80%以上であった。学生たちは、インターネットを使って文献や資料を集めたり調べたりすることが多いと考えられ、インターネットに親和性が高くインターネットを学修の方法のひとつとしてさらに活用していくことが期待できる一方で、インターネットの使い方やその注意点などについてもしっかり教えていく必要があると考えられる。また、「A. 授業課題のために図書館の資料を利用した」の質問項目で、「ときどきあった」または「ひんぱんにあった」と回答している学生の割合は 80%となっており、図書館を活用している学生の割合が比較的高くなっている。

「D. 提出期限までの授業課題を完成できなかった」に関しては、「ときどきあった」と回答する学生の割合が約 18%となっており、期限を守るということは 1 年次でも十分達成可能であり、今後社会人として信頼されるためにも重要であるため、十分な指導が必要である。

「G. 授業を欠席した」に関しては、「ときどきあった」と回答する学生の割合が約 18%であり、休ん

だり遅れたりすることなく授業に出席する学生のほうが多い。これに対し、「I. 授業をつまらなく感じた」、「J. 授業中に居眠りをした」の質問項目で「ひんぱんにした」あるいは、「ときどきあった」と回答する学生の割合が 50%以上となっており、授業に対して消極的な態度がうかがわれ、1 年次より作業療法に関する実践的な内容を含めていき、積極的な受講姿勢につながるような授業設計を検討していく必要がある。授業時間外の学修行動に目を向けてみると、「N. 教員に親近感を感じた」の質問項目で「ひんぱんにした」あるいは、「ときどきあった」と回答する学生の割合が約 55%となっており、教員に親近感を感じたというのは、チューター制の効果と考えられる。これらからモチベーションの維持・向上は学習意欲につながると考えられ、経年的な観察が必要である。

(3) 入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか

「K. 休日(授業のない日)に予習・復習を行う時間帯」の質問項目で、「全くしない」と回答している割合は 5%以下であり、95%以上の学生が予習復習を行っているのは、学習習慣の定着という部分で良い傾向と捉えられ、今後も継続的な支援が重要である。

「E. 大学外でアルバイトや仕事をする」の質問項目で、何らかのアルバイトをしている学生が 70%以上となっており、多くの学生がアルバイトを経験している。殆どが 15 時間以内であるが、「20 時間以上」と回答している学生が 1 名おり、今後学年が進み専門科目数が多くなっていくと学習時間の確保ができない、または授業の欠席や消極的な授業態度につながる可能性も示唆されるため、学生の生活習慣の把握や指導についても、チューター制度や学年主任を通じてさらに関わっていく必要がある。

(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

「A. 一般的な教養」、「C. 専門分野や学科の知識」、の質問項目については、「大きく増えた」または「増えた」と回答している割合が 70%以上であった。また、「J. 地域社会が直面する問題を理解する能力」、「O. プレゼンテーションの能力」の質問項目については、「大きく増えた」または「増えた」と回答している割合が 60%以上となった。このことから、一般的な学習課題の理解に加え、地域に目を向ける姿勢や自己の表出のスキルの向上が見受けられている。

他の項目において、「減った」または「大きく減った」と回答した項目は殆ど見受けられなかったが、「D. 批判的に考える能力」、「F. リーダーシップの能力」、「K. 国民が直面する問題を理解する能力」、「P. 数理的な能力」で「変化なし」が過半数を占めており、今後の学修指導においてどのようにしてこれらのスキル獲得に結び付けていくのかが、課題としてあげられる。

2. 大学における学習状況について（作業療法学科）

（１）あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

A. 実験・実習・フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ



C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する



D. 授業の一環でボランティア活動をする



E. 学生自身が文献や資料を調べる



F. 定期的に小テストやレポートが課される



G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する



H. 学生が自分の考えや研究を発表する



I. 授業中に学生同士が議論をする



J. 授業で検討するテーマを学生が設定する



K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる



L. 取りたい授業を履修登録できなかった



M. 出席することが重視される



N. SA・TA（上級生や大学院生の授業補助者）から補助を受ける



(2) 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

A. 授業課題のために図書館の資料を利用した



B. 授業課題のためにインターネット上の情報を利用した



C. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした



D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった



E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした



F. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた



G. 授業を欠席した



H. 授業に遅刻した



I. 授業をつまらなく感じた



J. 授業中に居眠りをした



K. 教員の研究プロジェクトに参加した



L. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した



M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした



N. 教員に親近感を感じた

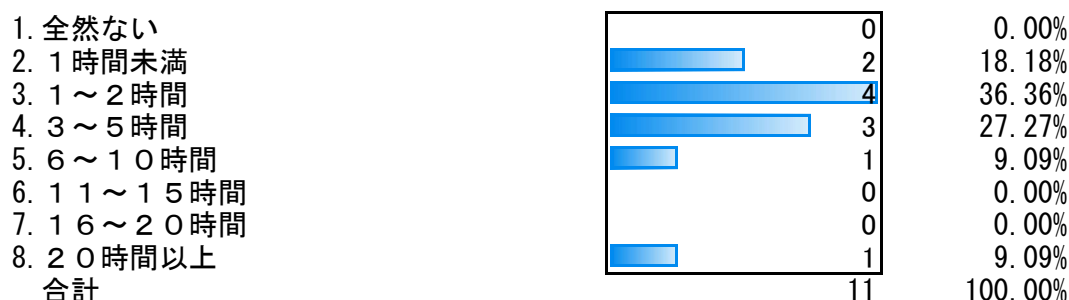


(3) 入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

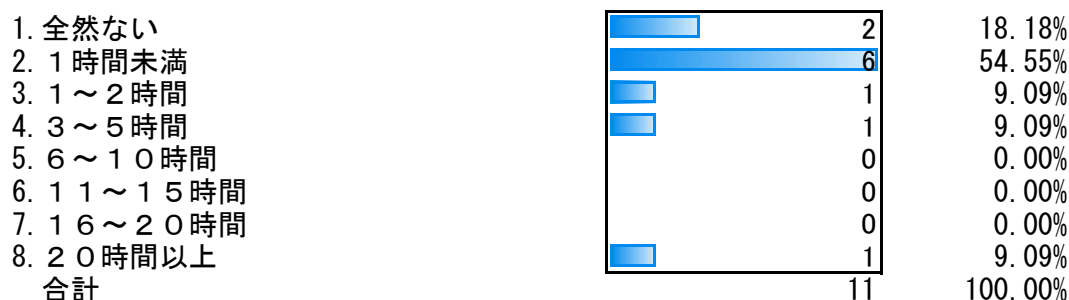
A. 授業や実験に出る



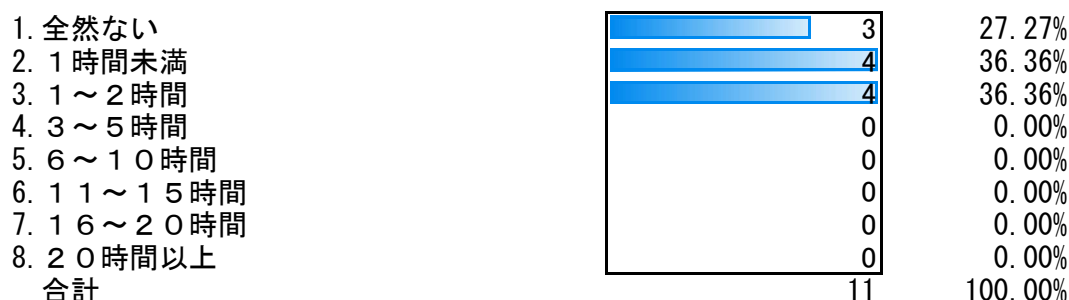
B. 授業時間以外に勉強や宿題をする



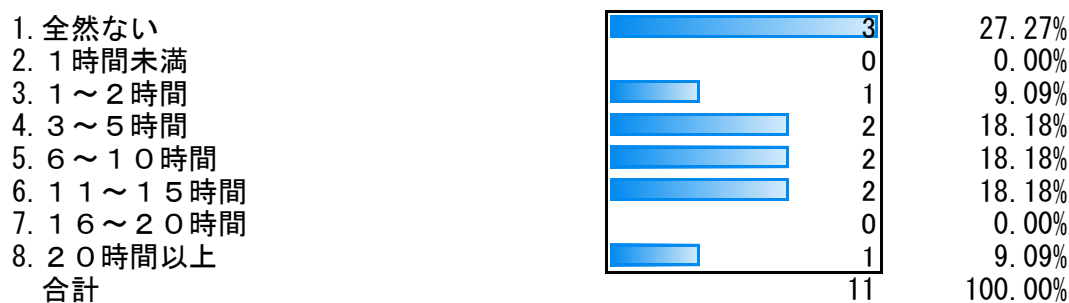
C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する



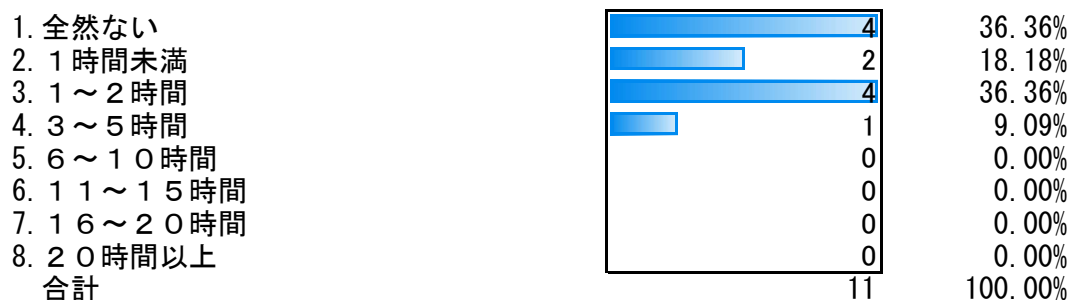
D. 部活動や同好会に参加する



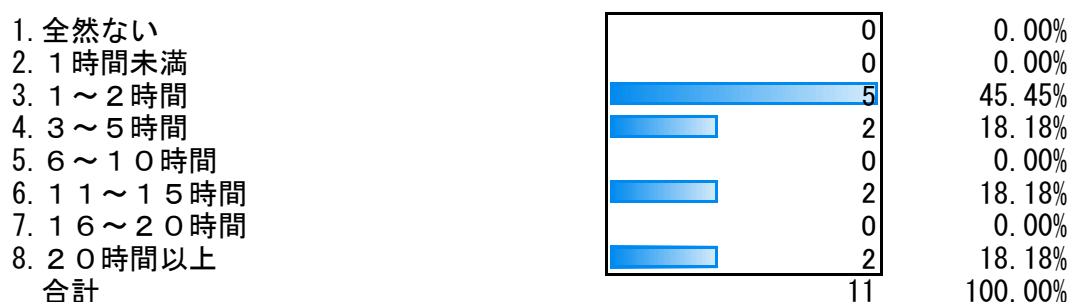
E. 大学外でアルバイトや仕事をする



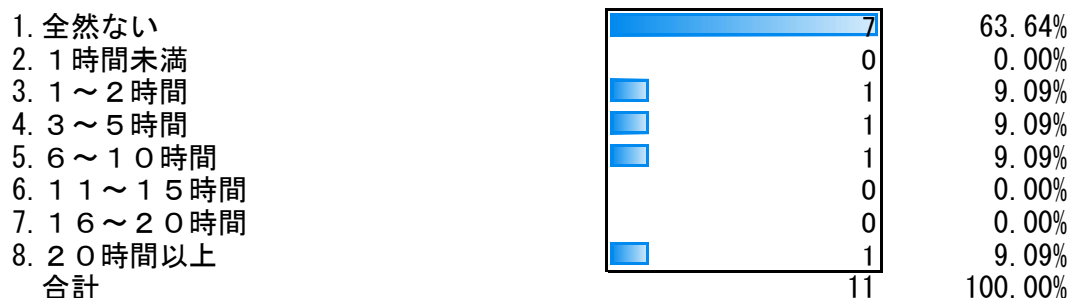
F. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）



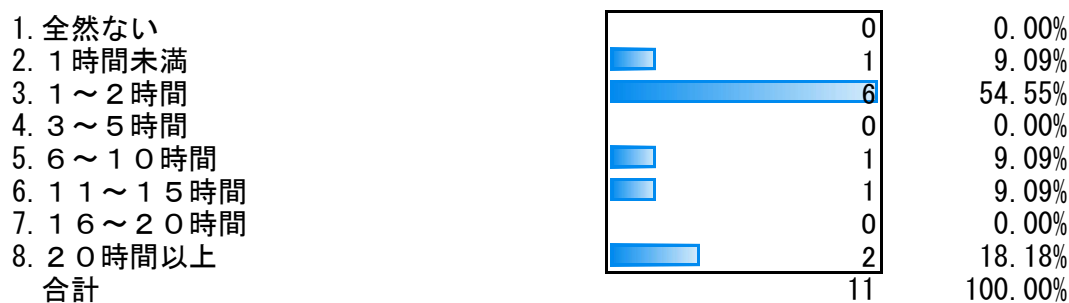
G. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）



H. ボランティア活動に参加する



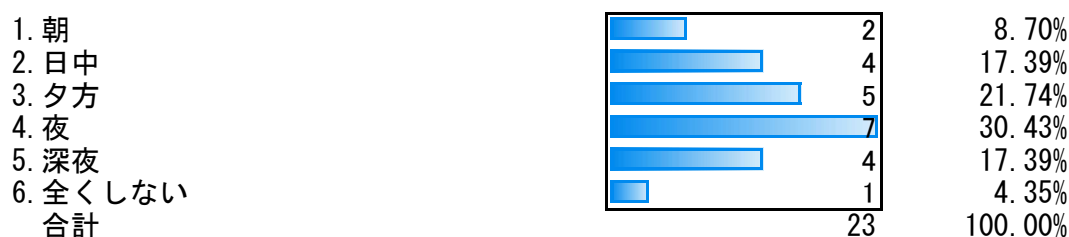
I. メール、Facebook、LINE等の利用



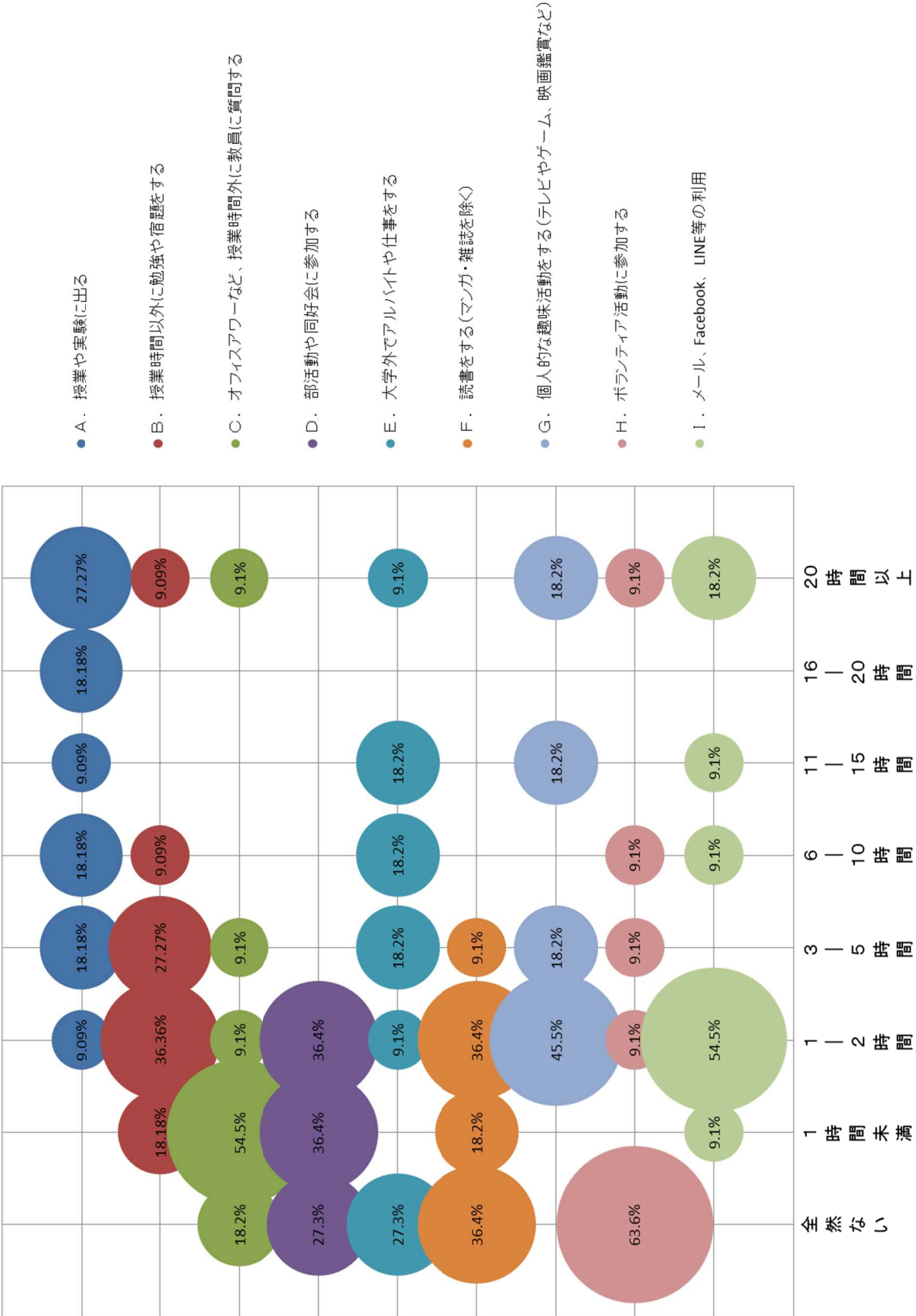
J. 平日（授業のある日）に予習・復習を行う主な時間帯 （あてはまるものをすべて選んでください。）



K. 休日（授業のない日）に予習・復習を行う主な時間帯 （あてはまるものをすべて選んでください。）



2019(3)入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか



(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

A. 一般的な教養



B. 分析力や問題解決能力



C. 専門分野や学科の知識



D. 批判的に考える能力



E. 異文化の人々に関する知識



F. リーダーシップの能力



G. 人間関係を構築する能力



H. 他の人と協力して物事を遂行する能力



I. 異文化の人々と協力する能力



J. 地域社会が直面する問題を理解する能力



K. 国民が直面する問題を理解する能力



L. 文章表現の能力



M. 外国語の運用能力



N. コミュニケーションの能力



O. プレゼンテーションの能力



P. 数理的な能力



Q. コンピュータの操作能力



R. 時間を有効に利用する能力



S. グローバルな問題の理解



T. 卒業後に就職するための準備の程度



2019 年度学修行動調査 健康医療科学部 理学療法学科考察

教務委員 小林大介

「全学生へのアンケート調査」であるため、1 年生しか在籍していない健康医療科学部と全学年在籍している全学部を単純に比較することは不適切であると考えられる。また、健康医療科学部は過去の 1 年生の回答も存在しない。そのため、他学部との比較、経年変化については、除いて考察する。また理学療法学科全体の回答率は 31.6% (19 名/60 名)と低いため、今後の回答率を向上させていく必要がある。

2. 大学における学習状況についての考察

(1)あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

D:授業の一環でボランティア活動をするの割合が「あまりなかった」あるいは「まったくなかった」の割合が約 80%と高く、実践的な社会体験の機会は多くはなかった。1 年生の科目として授業の一環でボランティア活動をするものの可能・不可能については科目の内容によるところが大きいので、この結果から考察することは難しいがボランティア活動を全学共通教育科目に取り入れたり、事務的な手続きを簡素化したり等の検討余地があると考えられる。

F:「SA・TA(上級生や大学院生の授業補助者)から補助を受ける」の「あまりなかった」または「まったくなかった」が 75 % 近くを占めている。理学療法学科は 1 年生のみで、大学院生も在籍していないことによるものと考えられるが、今後上級生を授業に入れる効果についても検討していく必要があると考えられる。

(2)あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

B:「授業課題のためにインターネット上の情報を利用した」および C:「インターネットを使って授業課題を受けたり提出したりした」の質問項目で、「ときどきあった」または「ひんぱんにあった」と回答している学生の割合が 90 % 以上であった。それに対して A:「授業課題のために図書館の資料を利用した」の質問項目で、「ときどきあった」または「ひんぱんにあった」と回答している学生の割合は 52% である。学生たちは、図書館に足を運ぶよりも、インターネットを使って文献や資料を集めたり調べたりすることのほうが多いと考えられた。学生はインターネットに親和性が高く、インターネットを学修の方法のひとつとしてさらに活用していくことが期待できる一方で、インターネットの使い方やその注意点などについてもしっかり教えていく必要があると考えられる。

D:「提出期限までの授業課題を完成できなかった」に関しては、「ときどきあった」と回答する学生の割合が 21%あり、期限を守るということは 1 年次でも十分達成可能であり、今後社会人として信頼されるためにも重要であるため、十分な指導が必要である。

G:「授業を欠席した」に関しては、「ひんぱんにした」あるいは、「ときどきあった」と回答する学生の割合が 32%であり、休んだり遅れたりすることなく授業に出席する学生のほうが多い。その反面、I:「授業をつまらなく感じた」、J:「授業中に居眠りをした」の質問項目で「ひんぱんにした」あるいは、

「ときどきあった」と回答する学生の割合も 30%以上あるので、授業中の態度は消極的な傾向にあることが問題と考えられ、1 年次より、理学療法に関する実践的な内容を含めていき、能動的傾聴や自主的・主体的学習活動につながるような授業設計を検討していく必要がある。授業時間外の学修行動に目を向けてみると、M:「大学の教職員に将来のキャリアを相談した」、N:「教員に親近感を感じた」の質問項目で「ひんぱんにした」あるいは、「ときどきあった」と回答する学生の割合が 50%以上あり、1 年次から半数の学生が将来のキャリアについて考えていることは、ポジティブな結果と捉えられ、また 60 名の学生がいる環境でも教員に親近感を感じたというのは、チューター制の効果と考えられる。これらからモチベーションの維持・向上は学習意欲につながると考えられ、経年的な観察が必要である。

(3) 入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか

K:「休日(授業のない日)に予習・復習を行う時間帯」の質問項目で、「全くしない」と回答している割合は 10%以下であり、90%以上の学生が予習復習を行っているのは、学習習慣の定着という部分で良い傾向と捉えられ、今後も継続的な支援が重要である。

E:「大学外でアルバイトや仕事をする」の質問項目で、何らかのアルバイトをしている学生が 50%以上おり、特に「20 時間以上」と回答している学生が 2 名いる。比較的時間に余裕のある 1 年生で上記のような結果となっており、今後学年が進み専門科目数が多くなっていくと学習時間の確保ができない、または授業の欠席や消極的な授業態度につながる可能性も示唆されるため、学生の生活習慣の把握や指導についても、チューター制度や学年主任を通じてさらに関わっていく必要がある。

(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

A:「一般的な教養」、C:「専門分野や学科の知識」、Q:「コンピュータの操作能力」、R:「時間を有効に利用する能力」の質問項目については、「大きく増えた」または「増えた」と回答している割合が 80%以上であった。「コンピュータの操作能力」については、manab@ISU を活用した授業や、フレッシュャーズセミナー等の科目において、「MS word」によるレポート作成や「MS powerpoint」でのプレゼン資料作成を通しての効果によるものが大きいと考えられる。

その一方で、F:「異文化の人々と協力する能力」、M:「外国語の運用能力」、P:「数理的な能力」の質問項目については、「変化なし」または「減った」または「大きく減った」と回答した割合が、他項目と比較し相対的に高かった(70 % 以上)。英語は必修の全学共通教育科目として学修しているが、その学修効果を発揮する機会や場が少ないことが考えられる。令和元年度に健康医療科学部は、学生交流や国際共同研究を推進することを目的に、マレーシアの Mahsa University およびシンガポールの Singapore Institute of Technology と国際交流協定を締結している。今後、共同研究や学生を対象とした短期留学プログラムの構築を計画している。国際交流プログラムを運用していく中で、英語の運用能力や異文化の人々と協力する能力の向上に寄与していくことが期待される。

2. 大学における学習状況について（理学療法学科）

（１）あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

A. 実験・実習・フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ



C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する



D. 授業の一環でボランティア活動をする



E. 学生自身が文献や資料を調べる



F. 定期的に小テストやレポートが課される



G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する



H. 学生が自分の考えや研究を発表する



I. 授業中に学生同士が議論をする



J. 授業で検討するテーマを学生が設定する



K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる



L. 取りたい授業を履修登録できなかった



M. 出席することが重視される



N. SA・TA（上級生や大学院生の授業補助者）から補助を受ける



(2) 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

A. 授業課題のために図書館の資料を利用した



B. 授業課題のためにインターネット上の情報を利用した



C. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした



D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった



E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした



F. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた



G. 授業を欠席した



H. 授業に遅刻した



I. 授業をつまらなく感じた



J. 授業中に居眠りをした



K. 教員の研究プロジェクトに参加した



L. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した



M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした

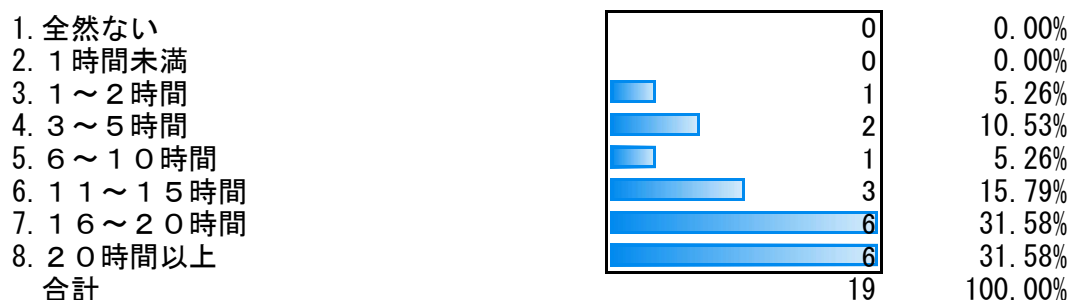


N. 教員に親近感を感じた

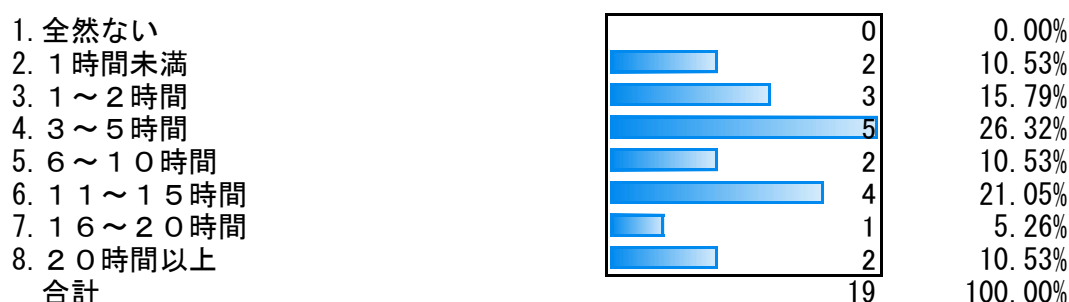


(3) 入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

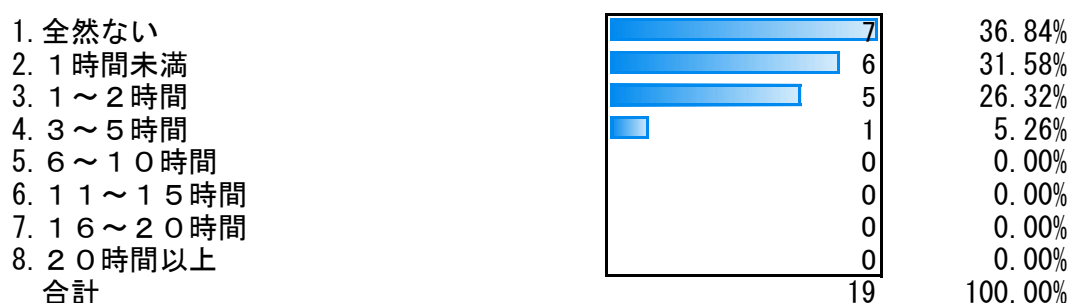
A. 授業や実験に出る



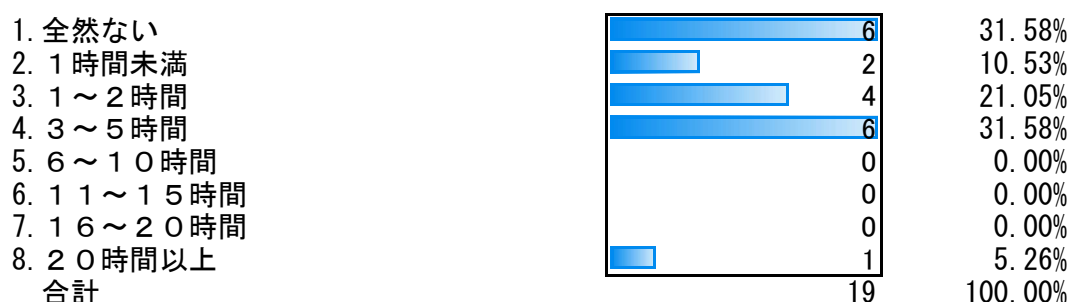
B. 授業時間以外に勉強や宿題をする



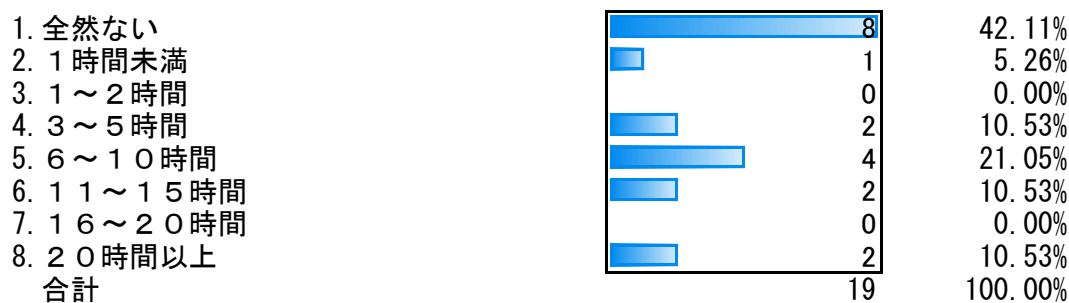
C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する



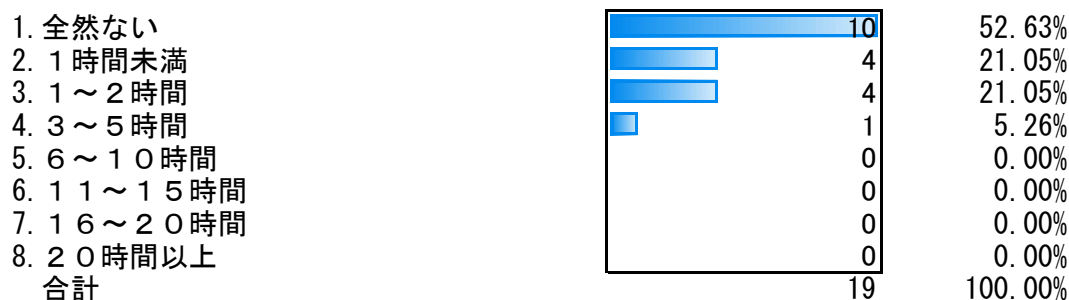
D. 部活動や同好会に参加する



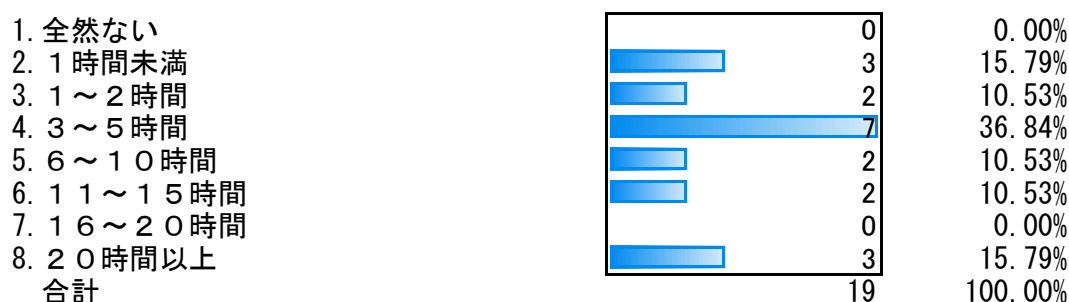
E. 大学外でアルバイトや仕事をする



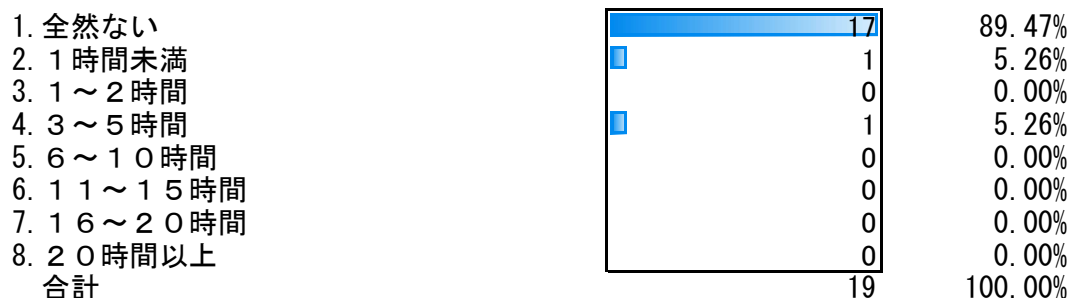
F. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）



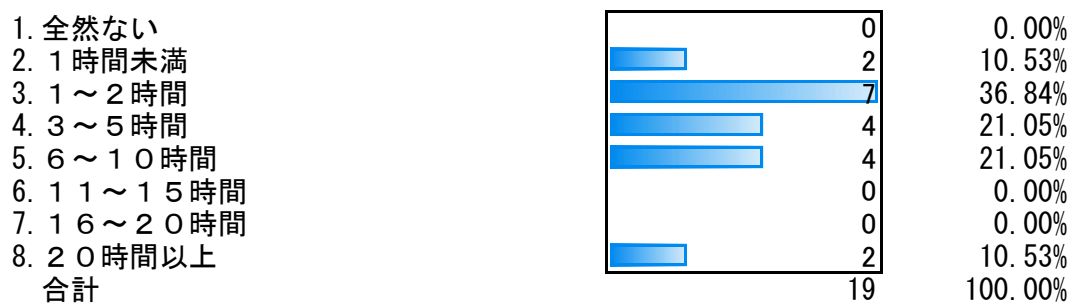
G. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）



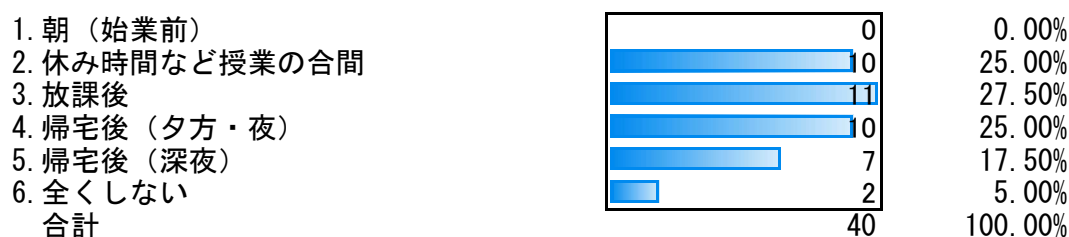
H. ボランティア活動に参加する



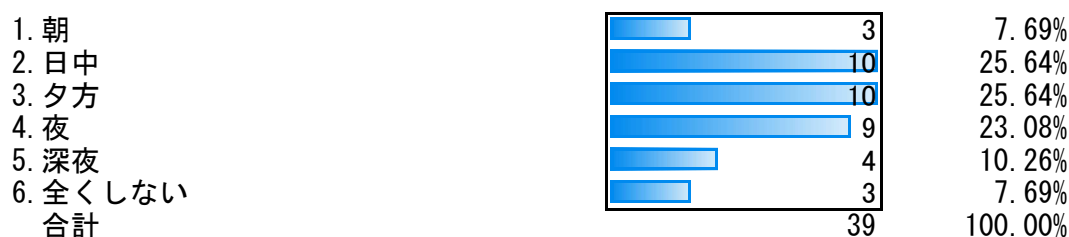
I. メール、Facebook、LINE等の利用



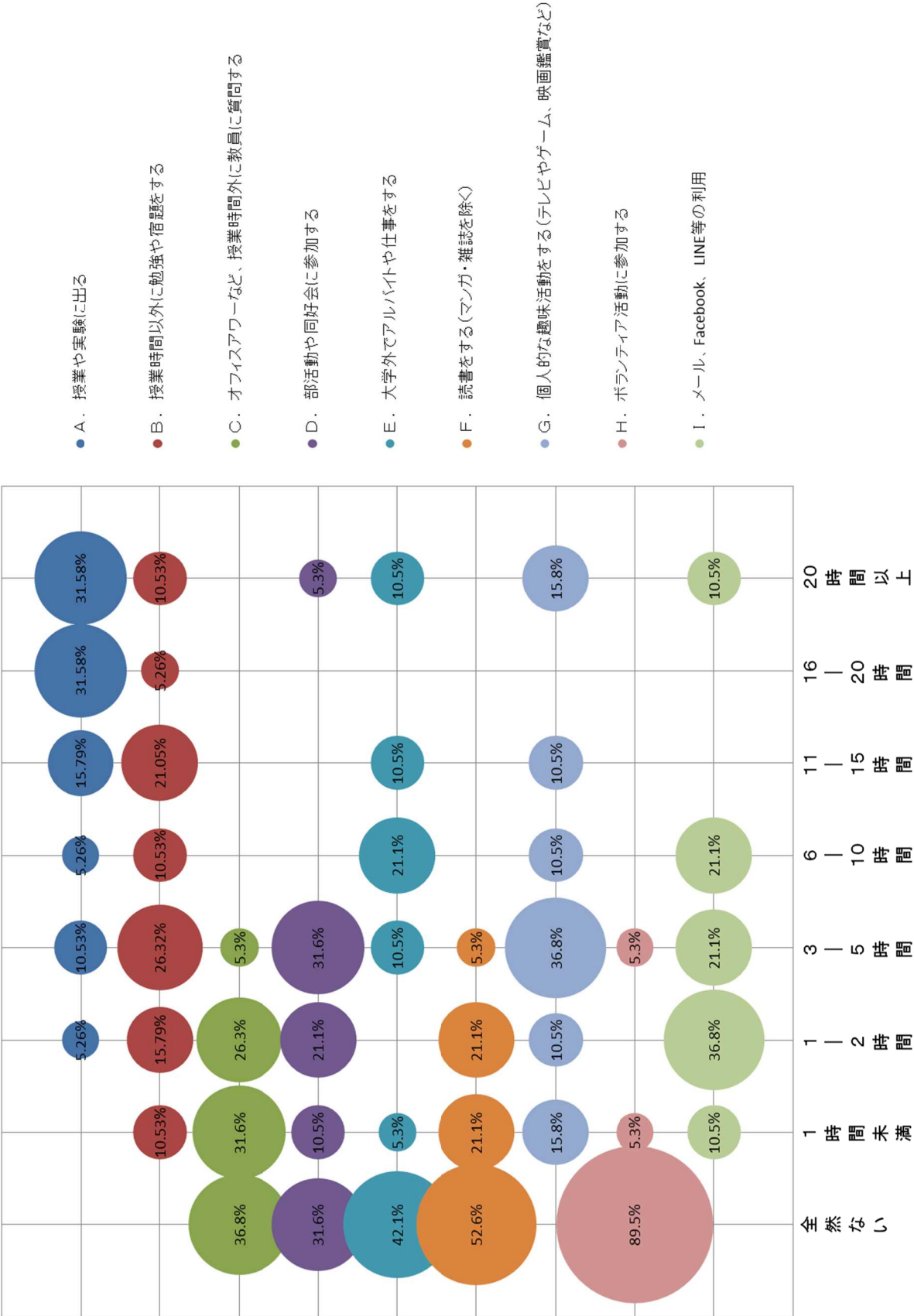
J. 平日（授業のある日）に予習・復習を行う主な時間帯 （あてはまるものをすべて選んでください。）



K. 休日（授業のない日）に予習・復習を行う主な時間帯 （あてはまるものをすべて選んでください。）



2019(3)入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか



(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

A. 一般的な教養



B. 分析力や問題解決能力



C. 専門分野や学科の知識



D. 批判的に考える能力



E. 異文化の人々に関する知識



F. リーダーシップの能力



G. 人間関係を構築する能力



H. 他の人と協力して物事を遂行する能力



I. 異文化の人々と協力する能力



J. 地域社会が直面する問題を理解する能力



K. 国民が直面する問題を理解する能力



L. 文章表現の能力



M. 外国語の運用能力



N. コミュニケーションの能力



O. プレゼンテーションの能力



P. 数理的な能力



Q. コンピュータの操作能力



R. 時間を有効に利用する能力



S. グローバルな問題の理解



T. 卒業後に就職するための準備の程度



付 録

1. 大学に入学する前や高校時代のことについて （全学部：1年生のみ）

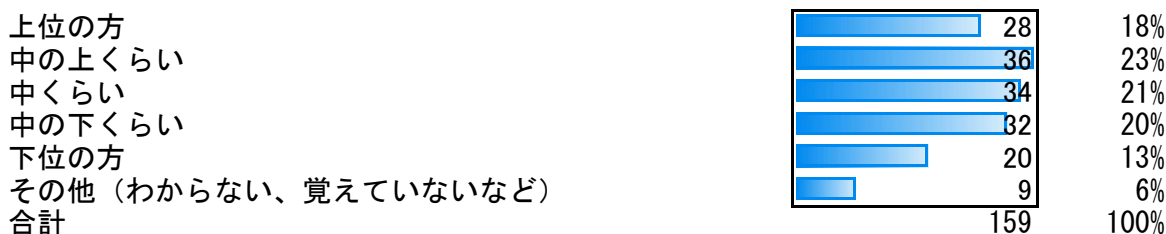
(1) あなたは志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。



(2) あなたは現役で本学に入学しましたか。



(3) あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。



(4) あなたが高校3年生だった時、次のことがらをどの程度しましたか。

A. 授業中、質問をした



B. 自分の意見を論理的に主張した



C. 問題の解決方法を模索し、それを他者に説明した



D. 自発的に作文の練習をした



E. インターネット上の情報が事実かどうか確認した



F. 困難なことにあえて挑戦した



G. 問題に対処するために新しい解決策を求めた



H. 科学的（自然・人文など）研究の記事や論文を読んだ



I. 授業以外に興味のあることを自分で勉強した



J. 自分の失敗から学んだ



K. 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた



1. 大学に入学する前や高校時代のことについて （薬学部：1年生のみ）

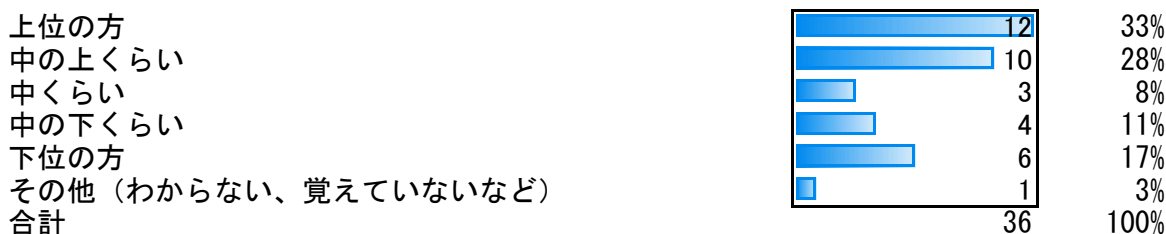
(1) あなたは志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。



(2) あなたは現役で本学に入学しましたか。



(3) あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。



(4) あなたが高校3年生だった時、次のことがらをどの程度しましたか。

A. 授業中、質問をした



B. 自分の意見を論理的に主張した



C. 問題の解決方法を模索し、それを他者に説明した



D. 自発的に作文の練習をした



E. インターネット上の情報が事実かどうか確認した



F. 困難なことにあえて挑戦した



G. 問題に対処するために新しい解決策を求めた



H. 科学的（自然・人文など）研究の記事や論文を読んだ



I. 授業以外に興味のあることを自分で勉強した



J. 自分の失敗から学んだ



K. 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた



1. 大学に入学する前や高校時代のことについて （看護学部：1年生のみ）

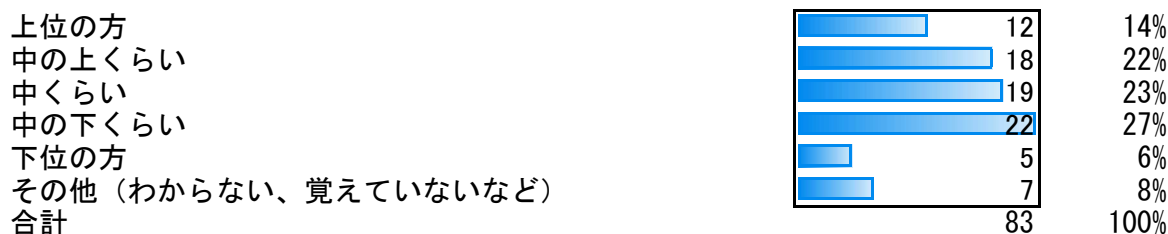
(1) あなたは志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。



(2) あなたは現役で本学に入学しましたか。



(3) あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。



(4) あなたが高校3年生だった時、次のことがらをどの程度しましたか。

A. 授業中、質問をした



B. 自分の意見を論理的に主張した



C. 問題の解決方法を模索し、それを他者に説明した



D. 自発的に作文の練習をした



E. インターネット上の情報が事実かどうか確認した



F. 困難なことにあえて挑戦した



G. 問題に対処するために新しい解決策を求めた



H. 科学的（自然・人文など）研究の記事や論文を読んだ



I. 授業以外に興味のあることを自分で勉強した



J. 自分の失敗から学んだ



K. 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた



1. 大学に入学する前や高校時代のことについて （健康医療科学部：1年生のみ）

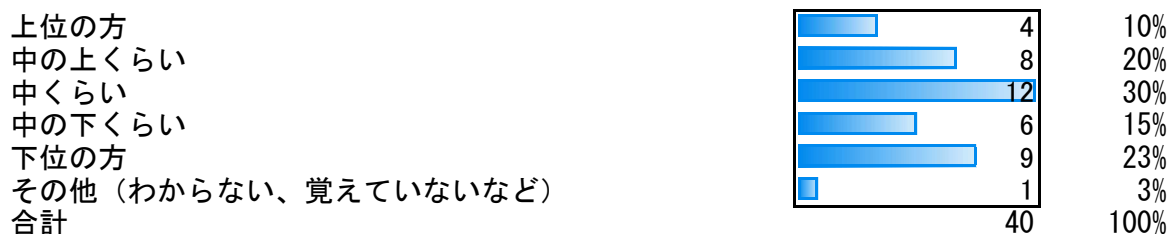
(1) あなたは志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。



(2) あなたは現役で本学に入学しましたか。



(3) あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。



(4) あなたが高校3年生だった時、次のことがらをどの程度しましたか。

A. 授業中、質問をした



B. 自分の意見を論理的に主張した



C. 問題の解決方法を模索し、それを他者に説明した



D. 自発的に作文の練習をした



E. インターネット上の情報が事実かどうか確認した



F. 困難なことにあえて挑戦した



G. 問題に対処するために新しい解決策を求めた



H. 科学的（自然・人文など）研究の記事や論文を読んだ



I. 授業以外に興味のあることを自分で勉強した



J. 自分の失敗から学んだ



K. 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた



3. 大学の学びに関する満足度について（全学部）

（1）あなたは、本学の教育内容にどれくらい満足していますか。

A. 全学共通教育の授業



B. 初年次生を対象とした教育プログラム内容

（フレッシュヤーズセミナー1・2、イグナイト教育1A・1Bなど）



C. 授業の全体の質



D. 日常生活と授業内容との関連



E. 将来の仕事と授業内容の結びつき



F. 教員と話をする機会



G. 個別の学習指導や援助（履修相談など）



H. 他の学生と話をする機会



I. 大学の中での学生同士の一体感



J. 多様な考え方を認めあう雰囲気



K. 大学での経験全般について



L. 1つの授業を履修する学生数



(2) あなたは、本学の施設や学生支援制度にどの程度満足していますか。

A. 図書館・学習センター（蔵書や学習スペースなど）



どちらでもない	37	19.07%
不満	12	6.19%
とても不満	2	1.03%
	194	100%

B. 実験室の設備や器具

とても満足	22	11.28%
とても満足	64	32.82%
どちらでもない	96	49.23%
不満	11	5.64%
とても不満	2	1.03%
	195	100%

C. コンピュータの施設や設備

とても満足	20	10.31%
とても満足	109	56.19%
どちらでもない	41	21.13%
不満	19	9.79%
とても不満	5	2.58%
	194	100%

D. コンピュータの訓練や援助

とても満足	21	10.94%
とても満足	91	47.40%
どちらでもない	63	32.81%
不満	15	7.81%
とても不満	2	1.04%
	192	100%

E. インターネットの使いやすさ

とても満足	12	6.06%
とても満足	74	37.37%
どちらでもない	50	25.25%
不満	49	24.75%
とても不満	13	6.57%
	198	100%

F. 奨学金など学費援助の制度

とても満足	16	8.56%
とても満足	65	34.76%
どちらでもない	83	44.39%
不満	16	8.56%
とても不満	7	3.74%
	187	100%

G. 健康保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）

とても満足	8	4.32%
とても満足	49	26.49%
どちらでもない	113	61.08%
不満	12	6.49%
とても不満	3	1.62%
	185	100%

H. 体育施設



I. キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）



J. 厚生館施設



4. 英語の学習状況について（全学部）

(1) あなたの英語能力をA. 聞く力、B. 読む力、C. 会話力、D. 表現力、E. 書く力の5つの観点から自己評価した場合に、到達していると思うレベルを、①入学時と②現在それぞれについて1つずつ答えてください。

A-1. 聞く力(①入学時)

1. はっきりと、ゆっくり話してもらえれば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	89	44.5%
2. 最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。	52	26.0%
3. 身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。	35	17.5%
4. テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。	16	8.0%
5. 特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。	8	4.0%
6. 英語を母国語とする人の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。	0	0.0%
合計	200	100.0%

A-2. 聞く力(②現在)

1. はっきりと、ゆっくり話してもらえれば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	57	28.5%
2. 最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。	68	34.0%
3. 身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。	49	24.5%
4. テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。	17	8.5%
5. 特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。	9	4.5%
6. 英語を母国語とする人の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。	0	0.0%
合計	200	100.0%

B-1. 読む力(①入学時)

1. 掲示やポスター、カタログなどの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	46	23.0%
2. ごく短い簡単な文章や、簡単に短い個人的な手紙は理解できる。	52	26.0%
3. 日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単に個人的な手紙を理解できる。	61	30.5%
4. 現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	33	16.5%
5. 複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門的文章も理解できる。	4	2.0%
6. 抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。	4	2.0%
合計	200	100.0%

B-2. 読む力(②現在)

1. 掲示やポスター、カタログなどの中よく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	29	14.5%
2. ごく短い簡単な文章や、簡単に短い個人的な手紙は理解できる。	47	23.5%
3. 日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単に個人的な手紙を理解できる。	77	38.5%
4. 現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	34	17.0%
5. 複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門的文章も理解できる。	9	4.5%
6. 抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。	4	2.0%
合計	200	100.0%

C-1. 会話力(①入学時)

1. 決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。	58	29.0%
2. 家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。	44	22.0%
3. 短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくい、相手の助け舟で、身近な話題について話し合える。	40	20.0%
4. 準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。	34	17.0%
5. 日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。	16	8.0%
6. 身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。	6	3.0%
7. 社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。	1	0.5%
8. いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。	1	0.5%
合計	200	100.0%

C-2. 会話力(②現在)

1. 決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。	39	19.5%
2. 家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。	42	21.0%
3. 短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくい、相手の助け舟で、身近な話題について話し合える。	43	21.5%
4. 準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。	42	21.0%
5. 日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。	20	10.0%
6. 身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。	11	5.5%
7. 社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。	2	1.0%
8. いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。	1	0.5%
合計	200	100.0%

D-1. 表現力(①入学時)

1. 住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	67	33.7%
2. 家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。	38	19.1%
3. 簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語ることができる。	66	33.2%
4. 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。	25	12.6%
5. 複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	1	0.5%
6. 論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。	2	1.0%
合計	199	100.0%

D-2. 表現力(②現在)

1. 住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	50	25.3%
2. 家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。	25	12.6%
3. 簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語ることができる。	82	41.4%
4. 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。	35	17.7%
5. 複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	5	2.5%
6. 論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。	1	0.5%
合計	198	100.0%

E-1. 書く力(①入学時)

1. お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。	59	29.5%
2. 簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。	56	28.0%
3. 身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。	62	31.0%
4. 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。	12	6.0%
5. 手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。	9	4.5%
6. 論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。	2	1.0%
合計	200	100.0%

E-2. 書く力(②現在)

1. お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。	47	23.6%
2. 簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。	50	25.1%
3. 身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。	63	31.7%
4. 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。	19	9.5%
5. 手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。	14	7.0%
6. 論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。	6	3.0%
合計	199	100.0%

(2)あなたは英語が好きですか。

1. 好き	31	15.5%
2. どちらかといえば好き	43	21.5%
3. 好きでも嫌いでもない	75	37.5%
4. どちらかといえば嫌い	27	13.5%
5. 嫌い	24	12.0%
合計	200	100.0%

(3)あなたは英語が得意ですか。

1. とても得意	6	3.0%
2. どちらかといえば得意	28	14.0%
3. 得意でも苦手でもない	66	33.0%
4. どちらかといえば苦手	53	26.5%
5. とても苦手	47	23.5%
合計	200	100.0%

(4)アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドなど英語圏への渡航経験についておうかがいします。 あてはまるものをすべて選んでください。

1. 英語圏に行ったことはない	150	71.1%
2. 英語圏に旅行したことがある	38	18.0%
3. 英語圏で1ヶ月未満のホームステイ・留学をしたことがある	17	8.1%
4. 英語圏で1ヶ月以上6ヶ月未満のホームステイ・留学をしたことがある	2	0.9%
5. 英語圏で6ヶ月以上1年未満のホームステイ・留学をしたことがある	1	0.5%
6. 英語圏で1年以上のホームステイ・留学をしたことがある	0	0.0%
7. 英語圏に住んでいたことがある	3	1.4%
合計	211	100.0%

(5)あなたが、今までに受験したことのある英語の検定試験についておうかがいします。あてはまるものをすべて選び、それぞれの試験について取得したスコアまたは級のなかで最も高いものを教えてください。

A. 受験経験

1. 今までに英語の検定試験を受けたことはない	74	31.9%
2. 実用英語技能検定(英検)	119	51.3%
3. TOEIC 公開テスト	13	5.6%
4. TOEIC IPテスト(団体特別受験)	9	3.9%
5. TOEIC Bridgeテスト	1	0.4%
6. TOEFLテスト ITP(団体受験)	3	1.3%
7. インターネット版 TOEFLテスト(TOEFL iBT)	1	0.4%
8. その他	12	5.2%
合計	232	100.0%

B. 取得したスコアまたは級のなかで最も高いもの

実用英語技能検定(英検) 級

1. 1級	1	1.0%
2. 準1級	36	36.7%
3. 2級	46	46.9%
4. 準2級	12	12.2%
5. 3級	3	3.1%
6. 4級	0	0.0%
7. 5級	0	0.0%
合計	98	100.0%